

2

Annual Report 2016

診 療 部

外来診療担当表
呼吸器内科
腎臓内科
神経内科
リウマチ・膠原病センター
糖尿病センター
消化器内視鏡センター
人工透析センター
循環器内科
外科
整形外科
脳神経外科・脳血管内科
心臓血管外科
皮膚科
小児科

泌尿器科
眼科
耳鼻咽喉科
放射線科
麻酔科
病理部
認知症疾患医療センター
歯科
健康増進センター
研修医の紹介
学会賞等受賞記念学術講演会
学会発表実績

外来診療担当表

◎は新患のみ、○は新患・再診、□は再診のみ
※2017年7月現在

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	呼吸器	診療部長			○	○	◎					
		副部長	小林 奨						○			
	内分泌	非常勤	宇佐 俊郎									□ 第4週
		//	安部 恵代						□ 第2週			
	腎臓内科	医員	上条 将史		◎						□	
		医員	久原 拓哉				○					
	神経内科	副院長 診療部長	竹尾 剛	□		□		◎				□
		非常勤	中村 龍文						○ 隔週			
	リウマチ 膠原病 センター	臨床研修・研究 統括部長	植木 幸孝	○	□			○				□
		センター長	寺田 馨									□ □
		部長	荒牧 俊幸	□						□		
		医員	辻 良香					□				◎
		医員	來留島章太							□		
		非常勤	一瀬 邦弘			○	□					
	糖尿病 センター	//	岩本 直樹			○	□					
		センター長	松本 一成	□		□		□		□		
		医員	明島 淳也	◎				□		□		□
		//	徳満 純一	□		□		◎				□
消化器 内視鏡センター	非常勤	魚谷 茂雄									◎	
	理事長	富永 雅也				□						
	副院長 センター長	木下 昇		○	○						○	
	診療部長	小田 英俊					○		○			
	医長	加茂 泰広	○						○			
	//	吉村 映美			○		○					
	//	高木 裕子									○	
非常勤	草場麻里子	○										
眼科	//	竹島 史直				□ 隔週						
	副部長	和田 光代	○		○				○		○	
人工透析センター	非常勤	担当医					○					
	医員	上条 将史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	医員	久原 拓哉	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
循環器内科	非常勤	林 和歌	○	○			○	○			○ ○	
	副院長 診療部長	木崎 嘉久	◎				□		◎		□	
	部長 救急部長	中尾功二郎			□		◎		□			
	医長	落合 朋子	□				□					
	医員	吉村 聡志			□						□	
非常勤	矢野 捷介			○						○		

科名	役職	氏名	月		火		水		木		金	
			午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
外科	胸部	病院長	碓 秀樹	○				○				□
		診療部長	佐々木伸文									○
	消化器	部長	草場 隆史			○						
		医員	原 亮介	○								
		医員	森 くるみ							○		
		//	丸山圭三郎									○
		名誉顧問	國崎 忠臣	□				□				
//	菅村 洋治			□		□						
整形外科	診療部長 手術部長	宮原 健次			○				○		○ (第2.4週)	
	部長	北原 博之	○				○				○ (第1.3.5週)	
脳神経外科	副院長 診療部長	阪元政三郎	○				○				○	
	副部長	竹本光一郎	○		◎ (専門)		○		◎ (専門)		○	
脳血管内科	医員	佐原 範之	○		◎ (専門)				◎ (専門)		○	
心臓血管外科	部長	谷口真一郎			○				○			
	副部長	中路 俊							□			
	医員	村上 健			□				□			
小児科	診療部長	山田 克彦		循環器 第1.3.5週	○	乳幼児健診 予防接種	○		アレルギー	アレルギー	担当医 生活習慣 (隔週)	
	部長	犬塚 幹	○	心身症		神経 第1週休診		心身症	○	神経	担当医 乳幼児健診	
泌尿器科	部長	徳永 亨介	○		□			○		□	○	
	非常勤	南 祐三	□					□ (前立腺)			□	
皮膚科	部長	山口 宣久	○		○		○		○		□	
耳鼻咽喉科	部長	大里 康雄	○		○		○	○	○		○	
	非常勤	担当医	○						○		○	
放射線科	副院長	平尾 幸一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	診療部長	堀上 謙作	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	部長	末吉 真	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	非常勤	山崎 拓也					放射線 治療計画	放射線 治療計画				
専門外来	インターフェロン	副院長	木下 昇		○							
		センター長	木下 昇		○							
	ペーサーメーカー	副院長 診療部長	木崎 嘉久		○ 第2.4週							
		部長	中尾功二郎		○ 第2.4週							
	乳腺	病院長	碓 秀樹					○				
		診療部長	佐々木伸文		○ 第2.4週							○
	ストーマ	部長	草場 隆史				○ 第2週					
	禁煙	非常勤	菅村 洋治				○		○			
	ステントグラフト	副部長	中路 俊				○					
	下肢静脈瘤		担当医							○		
	腹膜透析	医員	上条 将史							○		
睡眠時無呼吸外来	非常勤	近藤 英明				○ 第1週						
認知症疾患医療センター	センター長	井手 芳彦	○		○		○		○			
緩和医療	名誉顧問 非常勤	國崎 忠臣	○				○					
健康増進センター	一般健診	センター長 健康管理部部長	中尾 治彦		○	○	○	○	○	○	○	
		部長	寺園 敏昭	○	○	○	○	○	○	○	○	
		部長	川内奈津美	○	○	○	○	○	○	○	○	
	健診産婦人科	特別顧問	石丸 忠之	○	○	○	○	○	○	○		
乳がん検診		担当医	○		○		○		○			

Dept. of Respiratory Medicine

呼吸器内科

肺や縦隔、胸壁の疾患の患者さんを対象に、診断および内科的な治療を行っています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



診療部長
副島 佳文
(そえじま よしふみ)

鹿児島大学 昭和58年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医・指導医
がん治療認定医
日本医師会認定産業医
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)



副部長
小林 奨
(こばやし つとむ)

長崎大学 平成11年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会総合内科専門医
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)

診療内容

診療している主な疾患は以下のとおりです。

呼吸器感染症(かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、誤嚥性肺炎、肺化膿症、肺結核、非結核性抗酸菌症、肺真菌症など)

慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎など)

アレルギー・免疫疾患(気管支喘息、好酸球関連肺疾患、膠原病合併肺疾患、サルコイドーシスなど)

間質性肺疾患(間質性肺炎「肺線維症」、過敏性肺臓炎、塵肺など)

肺腫瘍(原発性肺がん、転移性肺がん、肺良性腫瘍、中皮腫など)

気管支拡張症

びまん性汎細気管支炎

慢性呼吸不全(在宅酸素療法など)

慢性咳嗽

診療実績

副島と小林の二人で診療しています。副島は肺癌の化学療法が専門で、小林は呼吸器感染症が専門です。外来は副島が火曜日の午前、午後、水曜日の午前に診療を行い、小林が木曜日に診療を行っています。

入院患者さんの疾患構成は、2016年4月1日から2017年3月31日のDPCデータによると肺の悪性腫瘍158件、肺炎・急性気管支炎・急性細気管支炎75件、誤嚥性肺炎61件、喘息18件、間質性肺炎17件、抗酸菌関連疾患16件、胸壁腫瘍・胸膜腫瘍12件、気道出血9件、敗血症8件でした。

呼吸器内科の主な検査は気管支鏡検査です。気管支鏡検査は水曜日の午後に行っています。末梢肺の小病変に対してはナビゲーションソフト、ガイドシース法を

用いて診断率を上げるようにしています。また肺門、縦隔リンパ節腫大に対しては超音波気管支鏡下リンパ節生検(EBUS-TBNA)を行っています。腫瘍の発生させる自家蛍光を観察できる気管支鏡も備えていますので肺門部早期肺癌の診断も可能です。

院内活動に関しては、副島は院内感染対策チームに属し、院内感染の監視や抗菌薬の適正使用についてミーティングを行っています。小林は呼吸療法チームに属し、人工呼吸器装着患者の回診を毎週火曜日に行っています。

院外活動としては副島は佐世保市医師会が行っている肺癌検診のダブルチェックに参加しています。

■主な診療実績

(入院)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
入院延患者数	8,088名	8,356名	7,567名	8,202名	7,277名
実入院患者数	397名	402名	429名	490名	433名
退院患者数 (当科 / 全科)	389名 (7.01%)	414名 (7.11%)	430名 (6.75%)	481名 (7.22%)	434名 (6.5%)
平均在院日数	21.1日	20.7日	19.1日	18.7日	17.8日
気管支鏡症例数 (うちガイドシース法)	221件 —	372件 —	127件 (62件)	146件 (79件)	123件 (82件)
(うちEBUS-TBNA)	—	—	(6件)	(7件)	(5件)

(外来)

	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
外来新患者数	297名	275名	192名	174名	212名
外来再来患者数	2,353名	2,496名	2,671名	2,693名	2,975名

臨床研究

長崎大学第二内科と連携し以下の臨床試験、治験を行っています。

(臨床試験)

- ・慢性閉塞性肺炎の増悪時におけるセフジトレンピボキシルの臨床効果
- ・65歳以上の高齢者肺炎(NHCAP、誤嚥性肺炎を含む)に対するシタフロキサシンの有効性

(治験)

- ・MK765A-014 国際共同試験
- ・ソリスロマイシンの臨床第Ⅲ相試験(市中肺炎)
- ・ソリスロマイシンの臨床第Ⅲ相試験(気管支炎)

認定施設

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器内視鏡学会認定施設

Dept. of nephrology

腎臓内科

腎疾患の発症から末期(透析)まで幅広く治療にあたっています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



医員
上条 将史
(かみじょう まさひみ)

産業医科大学 平成22年卒
日本内科学科認定内科医



医員
久原 拓哉
(くばら たくや)

2017年4月就勤

長崎大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本腎臓学会専門医
日本透析医学会専門医

診療内容

診療内容は大きく分けて次の4項目です。

診療している主な疾患

○慢性腎臓病(CKD)、とくに生活習慣病に関連した腎臓病の診療

慢性腎臓病のなかでも糖尿病・高血圧・脂質異常症など生活習慣病をともなうものは、末期腎不全のみならず致死的な心血管病を発症しやすいことが知られています。蛋白尿がわかった時点で腎臓専門医により正確な診断がなされなければ、治療・管理の方針が立たず、気付かないうちに進行してしまうことがあります。

当院では原疾患の治療および食事・生活指導などを多職種共同で包括的に行っています。また、かかりつけ医との連携も積極的に勧めています。

多くの慢性疾患と同じく腎臓病は末期に至るまで症状がでません。健康診断の血液検査や尿検査で異常が出て、慢性腎臓病を指摘された時は、自覚症状がなくても早めに受診することが大切です

○腎炎、ネフローゼ症候群、他の全身病に関連した腎臓病の診療

慢性糸球体腎炎(血尿と軽度～中軽度の蛋白尿を伴い、ゆっくり腎不全になる病気)

ネフローゼ症候群(多量の蛋白尿とむくみを伴う病気)急速進行性糸球体腎炎(数週～数か月で急速に腎不全に進行する病気)などは可能な限り腎生検による診断と治療方針の決定を行います。

治療はガイドラインを参照しながら行います。適応があればステロイド治療を行い、重症あるいは難治性の場合には免疫抑制剤やアフェレーシスを追加します。

○慢性腎不全の診断、治療

保存期の慢性腎不全では、食事療法、血圧コントロール、生活指導を行います。

腎機能が低下するのを防ぎ透析導入までの期間を延長すること、心血管合併症の発症を予防することを目標に治療・管理を行います。もし、腎機能が著しく低下している場合は、透析療法を導入していくための準備を行います。できるだけ負担の少ない導入を行い、円滑に維持透析に移行できるよう努めています。導入後通院や福祉施設が必要な方は、導入前より専門スタッフにご相談ください。また、腎移植が可能な場合は他の医療機関に紹介させていただきます。

診療実績

経皮的腎生検……………4例

診療体制

- ・新患 (月)PM……………上条 (火)PM……………久原 (金)AM……………林
- ・再診 (木)PM……………上条 (金)AM・PM……………林

認定施設

- 日本透析医学会認定施設
- 日本腎臓学会研修施設

Dept. of Neurology

神経内科

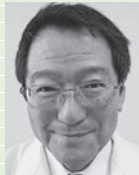
パーキンソン病や多発性硬化症など神経難病の専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



副院長・診療部長
竹尾 剛
(たけお こう)

長崎大学 昭和59年卒
医学博士
日本神経学会認定専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医



非常勤
中村 龍文
(なかむら たつふみ)

2014年6月就勤

長崎大学 昭和53年卒
長崎国際大学 人間社会学部 社会福祉学科 教授
日本内科学会認定医
日本神経学会専門医・指導医

診療内容

頭痛、めまい、手足のしびれ・震え・脱力、歩行障害、意識障害などの診断と治療が専門です。

問診は特に重要で、症状の変化から病気の種類を推定します。発症してからピークに達するまでの時間により、病気の種類が予測できます。脳梗塞などの血管障害ならば数分以内に症状が完成することが多く、脊髄小脳変性症やパーキンソン病などの変性疾患では数年以上かけて徐々に悪化することが多いといったように、病気の種類によって、臨床経過が異なり、診断の上で、大きなヒントとなります。

次に、神経学的な診察を行い、病気の責任病巣の

場所を推定します。脳神経領域や運動系・感覚系、深部腱反射・病的反射などを系統的に診察し、どこに病変があるのかを絞り込みます。

このようにして、病気の種類と場所がわかれば、ほとんどの疾患を診断することができます。

上記で得られたベッドサイドの診断を裏付けるために、MRI・CTなどの画像診断や、神経伝導検査・筋電図・脳波などの生理検査、あるいは筋生検・神経生検といった病理検査などの、必要な検査を行って、確定診断に導き、治療に繋げて行きます。

診療実績

中村の外来診療は、新患・再来ともに、第1・3木曜日の午前中で、残りの月・火および金曜日の午前中は竹尾の再来、毎週水曜日の午前中は、竹尾の新患外来となっています。

常勤医は1名のため、オンコール体制は採用していませんが、緊急時には連絡可能な体制を採っています。

新患紹介の予約は地域医療連携センターで対応しています。

神経内科の特徴は、緊急を要する疾患が比較的小さいのに対し、難病や希少疾患が多いといった点が挙げられます。このため、一般内科に比べると、一人ひとりの診察に要する時間が長く、紹介していただいてから、実

際に診察に至るまでのタイム・ラグが長いといったご意見も開業医の先生方から伺いますが、上記のような特徴をご理解いただき、予約診療にご協力いただきたいと思います。

また、難病の特性上、様々な身体機能障害を有する症例が多く、同じく白十字会に所属する耀光リハビリテーション病院と提携して、専門的な理学療法・作業療法のみならず、嚥下・言語障害や高次脳機能障害に対するリハビリテーションをシームレスに行うことを心がけています。

2011年には、日本神経学会より准教育施設に認定され、研修医をはじめとした若手ドクターの教育にも、携わっていきたく考えています。

■主な診療実績(入院患者)

・脳血管障害	5名
・神経変性疾患	
パーキンソン病	14名
多系統萎縮症	5名
筋萎縮性側索硬化症	5名
不随意運動疾患	2名
進行性核上性麻痺	1名
脊髄小脳変性症	1名
・認知症性疾患	
レビー小体型認知症	3名
アルツハイマー型認知症	3名
その他	1名
・末梢神経疾患(GBS、CIDPなど)	10名
・てんかん	8名
・自己免疫性中枢神経疾患(MS、NMO、脊髄炎など)	8名
・神経感染症(脳炎、髄膜炎、HAMなど)	5名
・内科疾患代謝性疾患に伴う神経障害	4名
・頭痛	3名
・筋疾患(筋ジス、筋炎、MG)	1名
・その他	
感染症(肺炎、尿路感染症など)	25名
悪性腫瘍	1名
整形外科的疾患	2名
精神疾患	2名
その他	5名

■臨床検査実施件数

脳MRI・MRA	126件
脊椎(頰椎・胸椎・腰椎)MRI	70件
神経伝導速度検査	56件
脳CT	35件
脳波	23件
脳(ダットスキャン)SPECT	18件
MIBG心筋シンチ	15件
頸部血管超音波	6件
筋生検	1件

認定施設

日本神経学会認定准教育施設

Dept.of Arthritis and Lupus Center

リウマチ・膠原病センター

関連診療科と連携して全身的な診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



常務理事
臨床研修・研究統括部長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本アフェシス学会認定専門医
九州リウマチ学会評議員



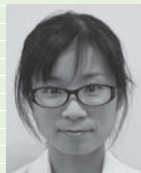
センター長
寺田 馨
(てらだ かおる)

長崎大学 昭和60年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医



部長
荒牧 俊幸
(あらまき としゆき)

長崎大学 平成13年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医
日本リウマチ学会登録ソングラファー



医員
辻 良香
(つじ よしか)
2017年4月就勤

長崎大学 平成24年卒



医員
來留島 章太
(くるしま しょうた)
2017年4月就勤

長崎大学 平成26年卒



医員
小島 加奈子
(こじま かなこ)
2017年4月就勤

長崎大学 平成27年卒



顧問
江口 勝美
(えぐち かつみ)

長崎大学 昭和45年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医・指導医・登録医



非常勤
一瀬 邦弘
(いちのせ くにひろ)

長崎大学 平成12年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本腎臓学会専門医・指導医・評議員
日本医師会認定産業医



非常勤
岩本 直樹
(いわもと なおき)

長崎大学 平成14年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
日本内科学会認定総合内科専門医



医員
辻 創介
(つじ そうすけ)

2017年3月退職
長崎大学病院へ異動

長崎大学 平成24年卒

診療内容

関節リウマチ、膠原病、および膠原病類縁疾患の患者さんを主な対象に、診断および内科的治療、さらにはよりよい治療法の開発に向けた研究活動を行っています。

診療している主な疾患は右記のとおりです。

＜リウマチ疾患＞関節リウマチ

＜膠原病＞全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎、多発性筋炎、血管炎症候群など

＜膠原病類縁疾患＞ベーチェット病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症など

診療実績

関節リウマチをはじめとする膠原病は、日本リウマチ学会・アメリカリウマチ学会・ヨーロッパリウマチ学会の分類基準により行うのが標準となっていますが、鑑別すべき疾患が多く注意深く鑑別することが必要で、最初に診断ができなくても、経過観察を継続することで診断に至ることがあります。一般に経過が長く、増悪・寛解を繰り返すので、現時点だけではなく長期的な視野に立って治療を考える必要があり、患者さん自身の意見を尊重する必要があります。すなわち、予後と治療法の選択、治療の費用、副作用の情報を適切に伝え、患者さん自身の意向を勘案しながら治療法を選択する必要があります。また、疾患あるいは治療薬に関係する合併症も多くみられます。

従って、リウマチ・膠原病センターでは、以下の点を診療科の目標としています。

- ① 診断および治療の適用・開始を的確に行う。
- ② 治療効果の判定、経過観察を適切に行う。
- ③ 疾患あるいは治療薬に関係する合併症の出現に注意し、出現時は、速やかに適切に対処する。
- ④ スタッフ（看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・ソーシャルワーカー・事務職など）と協力し、日常生活上の注意、物理・作業療法、社会福祉的な支援（特定疾患・身体障害者・介護保険の申請など）を行う。

特に、関節リウマチは近年、画期的な治療である生物学的製剤の登場で治療法が大きく変わっています。しかし、基礎疾患のため使用できない場合、生物学的製

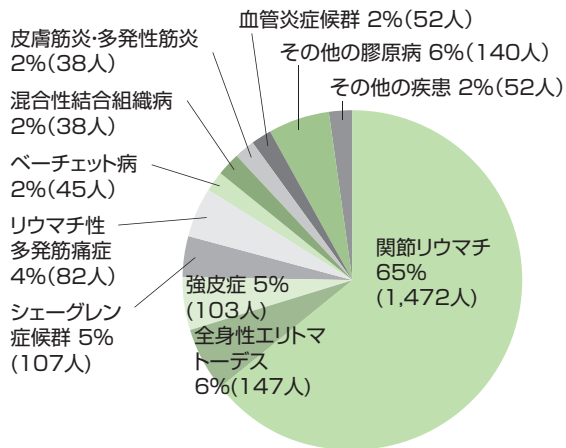
剤を使用しても十分な効果が出ない場合、生物学的製剤の副作用のため使用継続が困難である場合、生物学的製剤が高額のため経済的に使用できない場合などがあり、本当の意味で画期的とはいえない状態です。従って、生物学的製剤およびそれ以外の治療法の適応方法・開発が期待されます。今後もリウマチ膠原病疾患を中心に、佐世保市・県北の医療に貢献していきたいと思えます。

■ 診断内訳

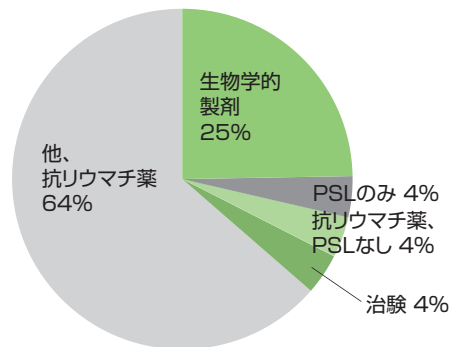
当リウマチ・膠原病センターはおよそ2000名のリウマチ・膠原病の患者さんを専門外来で診療しています。新患は年間約600名で、佐世保市などの長崎県北部のみならず、島原など県南部や、県外からも紹介を受けています。最近では、関節リウマチの診断・治療が急速に進み、早期リウマチの患者さんの紹介が急増しています。さらに2003年から導入された生物学的製剤により、リウマチの治療は痛みを抑える時代から、その進行を抑える時代、そして進行を止め、場合によっては関節破壊を修復するような激動の時代に突入しています。

当院では、全リウマチ患者さんの約25%に生物学的製剤を使用しています。遠方からたくさんの患者さんが当院を受診されているため、地域の先生方と県北リウマチネットワーク（RaRaサークル）を作り、リウマチの地域連携をすすめています。

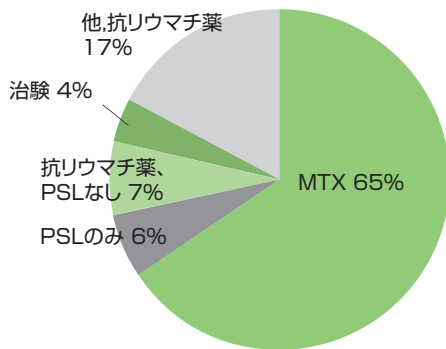
■診断内訳 2017年3月統計(N=2,276)



■生物学的製剤使用状況 (関節リウマチ患者=1,472人)



■MTX使用状況 (関節リウマチ患者=1,472人)



認定施設

日本リウマチ学会認定教育施設

Dept. of Diabetes Center

糖尿病センター

糖尿病患者の自己管理を専門チームが支援しています。

診療担当医 ※2017年7月31日現在センター長
松本 一成
(まつもと かずなり)長崎大学 昭和62年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本糖尿病学会専門医・指導医
日本内科学会認定内科医
生涯学習開発財団認定コーチ医員
明島 淳也
(あけしま じゅんや)
2017年4月就勤帝京大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医医員
徳満 純一
(とくみつ じゅんいち)

長崎大学 平成25年卒

非常勤

魚谷 茂雄
(うおたに しげお)

長崎大学 昭和63年卒

医長
森 芙美
(もり ふみ)2017年3月退職
長崎原爆病院へ異動長崎大学 平成17年卒
日本内科学会認定内科医
日本糖尿病学会専門医医員
重野 里代子
(しげの りよこ)2017年3月退職
諫早総合病院へ異動久留米大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医

診療内容

かかりつけ医から紹介された患者さんや、健康診断で糖尿病が疑われた患者さん(メタボリックシンドロームも含む)、あるいは糖尿病そのものや合併症がコントロールできていない患者さんなどを対象としています。糖尿病の診断、食事療法・運動療法を実行するための支援、糖尿病薬やインスリンによる治療、合併症の管理など、糖尿病専門機関でしかできないような診療を行っています。一方でかかりつけ医と地域連携システムを構築し、地域連携パス「佐世保ブルーサークル」を運用しています。通常の治療はかかりつけ医で行い、専門的な教育や検査は専門施設である当院で行うことになり、医療資

源を最大限に生かす有用な方法です。

糖尿病の理想的な治療は、できるだけ正常に近くするように血糖値をコントロールして合併症を防止することです。そのためには、患者さん自身による「自己管理」が大切です。当院では、患者さんの自己管理を支援するために専門チームを結成し、「教育入院(2週間)」、「検査入院(1泊2日)」、「腎症教育入院(4泊5日)」、「栄養看護外来」の4つのコースを運営しています。なかでも教育入院の成績は大変良好であり、退院後多くの患者さんがHbA1c (NGSP値) 7%未満を達成されています。

診療実績

糖尿病センターでは毎月およそ1,400名の糖尿病患者さんを専門外来にて診療し、年間およそ100名の糖尿病教育入院に携わっています。新患は年間およそ300例で、長崎県内では最も充実した糖尿病学会認

定教育施設です。常勤医は松本医師・森医師・重野医師・徳満医師の4名です(2017年3月31日時点)。看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師など専門性の高いメディカルスタッフも大いに活躍し

ており、連携のとれたチーム医療が実践されています。例えば、看護師は糖尿病性壊疽を未然に予防する「フットケア」の実践を行っています。また、管理栄養士も毎日栄養指導を行っています。医師、看護師、管理栄養士による「透析予防指導」にも取り組んでいます。診療のみならず学術的な分野でも毎年、学会や論文など多くの糖尿病診療に関する重要な知見を継続して発表しています。その分野は多岐にわたっており、糖尿病療養指導、腎症、動脈硬化、コーチングなど幅広い発表内容になっています。

■糖尿病教室

- 月・徳満／管理栄養士
- 火・管理栄養士 理学療法士
- 水・松本／管理栄養士
- 木・管理栄養士 看護師
- 金・重野／管理栄養士 臨床検査技師

「共感的に患者さんの言葉を傾聴する」、「わかるまで繰り返し情報提供を続ける」、「どうなりたいのか具体的に質問する」、当たり前のことと思われがちですが、実際にできている施設は少ないと思います。患者さんの自主性を支援することをエンパワメントといいますが、このことを実践するために、糖尿病の基礎知識や最新の情報を整理して患者さんに理解しやすい資料を作成しています。また、医療者と患者さんの双方向性のコミュニケーションを促進するためのコーチングにも磨きをかけています。

■主な診療実績

2016年度新患数	309名
月平均受診者数	889名
平均HbA1c	7.7%

■クリニカルインディケータ（薬物療法患者対象）

2016年4月～2017年3月

		第1四半期 (4・5・6月)	第2四半期 (7・8・9月)	第3四半期 (10・11・12月)	第4四半期 (1・2・3月)	年 間
2016年度		30.39%	36.78%	30.75%	30.62%	34.06%
	HbA1c7.0未満の患者数	272	331	270	260	513
	薬物治療患者数	895	900	878	849	1,506

認定施設

日本糖尿病学会教育施設

Dept. of Gastroenterological Endoscopy

消化器内視鏡センター

がんの早期発見・早期治療に威力を発揮しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



副院長・センター長
木下 昇
(きのした のぼる)

長崎大学 昭和 57年卒
医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本消化器内視鏡学会九州支部評議員
日本感染症学会ICD (インフェクションコントロールドクター)



診療部長
小田 英俊
(おだ ひでとし)

長崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本内科学会認定医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医



医長
加茂 泰広
(かも やすひろ)

長崎大学 平成17年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会認定肝臓専門医



医長
吉村 映美
(よしむら えみ)

長崎大学 平成17年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医



医長
高木 裕子
(たかき ひろこ)

2017年6月就勤

長崎大学 平成18年卒
日本内科学会認定内科医
日本消化器病学会専門医
日本肝臓病学会専門医



医員
志垣 雅誉
(しがき まさたか)

2017年4月就勤

長崎大学 平成26年卒



医員
岩津 伸一
(いづつ しんいち)

2017年3月退職
長崎大学病院へ異動

長崎大学 平成23年卒



医員
峯 彩子
(みね あやこ)

2017年5月退職
国立病院機構 佐賀病院へ異動

福岡大学 平成23年卒

診療内容

全機種ハイビジョン対応の上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡を用いて、消化管(食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、S状結腸、直腸)と胆嚢、胆管、膵臓に疾患をもつ患者さんのスクリーニング検査と診断および内視鏡的治療を行っています。主な内視鏡的治療は以下のとおりです。

- ・全消化管に対する内視鏡的止血術
- ・食道静脈瘤に対する結紮術
- ・早期食道がんおよび早期胃がんに対するESD (内視鏡的粘膜下層剥離術)

- ・大腸ポリープ、早期大腸がんに対するESDおよびEMR (内視鏡的ポリープ切除術)
 - ・上部消化管狭窄や胆道悪性腫瘍に対する拡張術 胃瘻造設術
 - ・異物除去
 - ・閉塞性黄疸に対する内視鏡的胆道ドレナージ術
 - ・内視鏡的総胆管結石除去術
- 肝臓病では、ウイルス性肝炎の診断及びインターフェロンフリーを中心とした治療、肝細胞がんに対する超音波下、腹腔鏡下ラジオ波焼灼療法及びエタノール局注療法を行っています。

診療実績

食道、胃、十二指腸に対する上部消化管検査は、年間5,585件(2016年度実績)実施し、うち433件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

小腸、大腸、S状結腸、直腸に対する下部消化管検査は、年間1,580件(2016年度実績)実施し、うち約506件に上記のような内視鏡的治療を行っています。

当院は佐世保市指定二次救急輪番病院であり、年間を通して、昼夜を問わず消化管出血などの患者さん

が搬送されてきます。当科では、チーム内でオンコール体制をとり、緊急の症例にも対応しています。

近年の内視鏡による診断・治療手技の飛躍的な進歩により、胃がんや大腸がんは、早期がんの段階で発見できれば、治療することによりほぼ100%完治できるようになっています。異常を自覚したり、健康診断で精密検査を進められた方は、躊躇されることなくできるだけ早いうちに当科を受診されることをおすすめします。

■主な診療実績

上部消化管内視鏡検査	5,585件
下部消化管内視鏡検査	1,573件
上部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	50件
下部内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	57件
上部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	11件
下部内視鏡的粘膜切除術(EMR)	423件
内視鏡的止血術	111件
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	10件
内視鏡的拡張術	33件
内視鏡的静脈瘤結紮術(EVL)	16件

カプセル型小腸内視鏡検査	7件
内視鏡的胆道治療(ERBD/EST)	210件
超音波内視鏡検査(EUS)	211件
内視鏡的異物除去術	18件
肝生検	43件
ラジオ波焼灼療法(RFA) エタノール局注療法(PEIT)	22件
インターフェロン治療導入	0件
インターフェロンフリー治療導入	19件
B型肝炎核酸アナログ導入	14件

認定施設

- ・日本消化器内視鏡学会指導施設
- ・日本消化器病学会認定施設

Dept. of artificial dialysis Center

人工透析センター

血液浄化療法を導入し、免疫性疾患の治療にも対応しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



常務理事
臨床研修・研究統括部長
植木 幸孝
(うえき ゆきたか)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
長崎大学臨床教授
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本リウマチ学会認定医・専門医・指導医・評議員
日本透析医学会専門医・指導医
日本アフェレンス学会認定専門医
九州リウマチ学会評議員



医員
上条 将史
(かみじょう まさふみ)

産業医科大学 平成22年卒
日本内科学科認定内科医



医員
久原 拓哉
(くぼら たくや)

2017年4月就勤

長崎大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医



非常勤
林 和歌
(はやし わか)

長崎大学 平成8年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本内科学会認定総合内科専門医
日本腎臓学会腎臓専門医
日本透析医学会専門医

診療内容

腎臓疾患や自己免疫疾患などの患者さんを主な対象に、専門的な診断および血液透析や血漿交換など、血液浄化装置を用いて各種専門治療を行っています。診療している主な疾患は次のとおりです。

〈腎臓疾患〉

ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎、腎性高血圧、糖尿病性腎症、
膠原病に伴う腎障害、急性腎障害、慢性腎臓病など

〈自己免疫疾患〉

関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、血管炎、潰瘍性大腸炎など

診療実績

常時80人以上の維持透析を行い、また、透析導入やあらゆる急性血液浄化療法にも対応しています。

2015年度に全国で維持透析導入された患者数は36,000人を超え、また維持透析患者数も320,000人を

超えました。また、導入時平均年齢は男性が68.3歳、女性は70.9歳、全体の平均年齢は69.2歳、当院においても男性61.0歳、女性71.0歳、全体では61.62歳と導入患者さんの高齢化が進んでいます。また、20年以上透

析患者数は全国で25,391人と、全透析患者の中の8.0%を占め、長期透析患者さんの増加傾向が明らかとなっています。

透析患者さんの高齢化、維持透析の長期化に伴い、アミロイドーシスや透析性骨症といった透析患者さん特有の合併症に加え、脳血管障害、心血管障害、悪性腫瘍などの多岐にわたる合併症を有する患者さんが増加し、それらの診断、治療も重要な位置を占めるようになりまし。人工透析センターは、さまざまな科を有する

総合病院で行う透析の利点を生かし、専門の他科と連携して、急性期治療が必要な合併症を持つ透析患者さんを受け入れています。脳血管障害や心血管障害、術後などでCHDFを施行した回数は2015年度89回、2016年度124回、膠原病や肝疾患、消化器疾患を対象とした血漿交換やLCAP等の特殊血液浄化療法の施行もそれぞれ108回、53回と急性期の血液浄化療法も積極的に行っています。

■ 主な診療実績

- ・維持透析患者数 83人
2017年3月31日現在
- ・維持透析導入患者
(急性腎不全、術後一時的導入を除く)
2015年度 24人
2016年度 16人

- ・特殊血液浄化療法施行回数
(2015年4月1日～2017年3月31日)延べ回数

	2015年度	2016年度
LCAP	42	8
GCAP	10	27
血漿交換 他	43	10
エンドトキシン吸着	13	8
CHDF	89	124

認定施設

日本透析医学会認定施設

Dept. of Cardiology

循環器内科

急性心筋梗塞をはじめ循環器疾患にオンコール体制で365日・24時間対応しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



副院長・診療部長
入退院支援センター長
木崎 嘉久
(きざき よしひさ)

長崎大学 昭和59年卒
日本内科学会認定内科医・認定総合内科医・指導医
日本循環器学会認定専門医
日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医
同九州地方会運営委員
日本高血圧学会専門医・指導医
日本医師会認定産業医
長崎県急性心筋梗塞検討委員会 委員



部長・救急部部长
中尾 功二郎
(なかお こうじろう)

長崎大学 平成2年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本循環器学会認定専門医
日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医



医長
落合 朋子
(おちあい ともこ)

長崎大学 平成20年卒
日本内科学会認定内科医
日本心血管インターベンション治療学会認定医



医員
吉村 聡志
(よしむら さとし)
2016年4月就勤

長崎大学 平成24年卒
日本内科学会認定内科医
日本救急学会ICLSインストラクター
JATEC-FCCSプロバイダー
日本化学療法学会抗菌化学療法認定医



非常勤
矢野 捷介
(やの かつすけ)

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
長崎国際大学 健康管理学部客員教授
長崎大学医学部名誉教授
日本老年医学会認定老年病専門医・指導医
日本循環器学会認定専門医・日本内科学会認定内科医
介護老人保健施設長寿苑顧問

診療内容

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、高血圧症、不整脈など、心臓疾患や循環器疾患を対象に、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査（緊急対応可）や64列MDCT（マルチスライスCT）を使用して、冠動脈、大血管などの評価、心臓核医学検査など専門的な診断および治療を行っています。急性心筋梗塞には常時オンコール体制で365日・24時間対応しています。診療している主な疾患は次のとおりです。

- 〈虚血性心疾患〉急性心筋梗塞、狭心症 など
- 〈高血圧症〉本態性高血圧症、二次性高血圧症 など
- 〈不整脈〉頻脈性不整脈、徐脈性不整脈、心房細動 など
- 〈心臓弁膜疾患〉僧帽弁膜症、大動脈弁膜症や先天性心疾患 など
- 〈心臓筋疾患〉心膜炎、筋炎、筋症 など
- 〈血管疾患〉大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症 など

診療実績

外来診療は平日午前中に新患、再来各1名で行い、専門外来としてペースメーカー外来を第2および第4月曜午後に実施しています。平日午後には血管インターベンション加療(PCI)やカテーテルアブレーション加療(ABL)などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携セ

ーベンション加療(PCI)やカテーテルアブレーション加療(ABL)などの各種検査と治療を中心に診療しています。新患紹介や冠動脈CTA検査などの予約は連携セ

ンターで対応しており、また、メディカルネット99からの直接予約も可能となっています。

救急受入れは、平日日勤帯は常時対応しています。時間外は内科系当直の対応となりますが、急性心筋梗塞や重症心不全症例など緊急治療を要する場合は、循環器内科当番医(オンコール)で加療しています。緊急心臓カテーテル検査も24時間常時実施可能です。

心臓リハビリテーション指導士による運動療法やPCIや末梢血管形成術(PTA・PTR)、不整脈加療としてペースメーカー加療、ABL、心臓再同期療法(CRT)と難治性・致死性不整脈疾患へ植込み型除細動器(ICD)、両者を併せた両室ペーシング機能付除細動(CRT-D)治療、他に大動脈内バルーンポンプ(IABP)や経皮経管的心肺補助システム(PCPS)による補助循環システムを利用した加療を実施しています。多科連携での血管内カテーテル治療となる大動脈STENT.graft留置(EVAR・TEVAR)、頸動脈狭窄へのSTENT加療(CAS)なども施設基準制定を受けて加療を行っています。

地域医療連携の一環としてAMI・PCI地域連携パスを2006年5月より稼働、2017年3月までに地域医療機関95施設(病院15、医院・診療所80施設)との間で、延べ385症例で運用しています。

■主な診療実績 2016年(1/1-12/31)

心エコー図検査	3,204例
心臓カテーテル検査	455例
大動脈CT	341例
心臓CT(冠動脈CTA)	213例
心血管インターベンション加療	144例
心筋シンチ	91例
体内式ペースメーカー植込み(CRT・ICD含む)	40例
末梢血管インターベンション加療	27例
年間入院数	586名
(うち急性心筋梗塞40名)	

■循環器関連機器

・心エコー図装置	4台
Toshiba社製 Aplio	
GE社製 vivid i	GE社製 vivid E9
・64列 MDCT	1台
PHILIPS社製 Brilliance64	
・血管造影装置	2台
PHILIPS社製 Allura Clarity FD 20/20	
Toshiba社製 Infinix Celeve-i	
・冠動脈血管内超音波装置	1台
VOLCANO社製	
VOLCANO S5 Imaging system	
・負荷 ECG装置	
エルゴメータ1台	トレッドミル1台 CPX
・ホルター解析装置	1台
フクダ電子 SCM-8000	
・RI装置	1台
・MRI	1.5T 1台
	3.0T 1台(心血管 MRA対応可)

認定施設

- ・日本循環器学会認定教育施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定教育施設
- ・日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・日本高血圧学会認定研修施設
- ・両心室再同期療法・植込み型除細動器治療(CRT-D)実施認定施設
- ・胸部-腹部大動脈STENT留置(EVAR・TEVAR)
- ・心大血管疾患リハビリテーション認定(I)

施設対応

- ・Medtronic製MRI対応型ペースメーカー植込み患者MRI検査施設

Dept. of Surgery

外科

専門医による高度の医療を提供する体制を整備。患者さんのQOLを重視した縮小手術も積極的に実施しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



理事
病院長
碓 秀樹
(いかり ひでき)

長崎大学 昭和58年卒
医学博士
日本外科学会専門医
検診マンモグラフィ読影認定医
日本消化器外科学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本医療マネジメント学会評議員



臨床検査部長
梶原 啓司
(かじはら けいじ)

徳島大学 昭和55年卒
医学博士
日本外科学会専門医・指導医
日本消化器外科学会専門医・指導医
消化器がん外科治療認定医
日本消化管学会胃腸科認定医



診療部長
佐々木 伸文
(ささき のぶひこ)

宮崎大学 昭和62年卒
医学博士
日本外科学会専門医
日本胸部外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医
日本乳癌学会認定医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



部長
草場 隆史
(くさば たかふみ)

長崎大学 平成9年卒
医学博士
日本外科学会認定医・専門医



医員
原 亮介
(はら りょうせい)

長崎大学 平成23年卒
日本外科学会専門医



医員
森 くるみ
(もり くるみ)
2017年4月就勤

長崎大学 平成24年卒



医員
丸山 圭三郎
(まるやま けいざぶろう)
2017年4月就勤

長崎大学 平成25年卒



名誉顧問
國崎 忠臣
(くにさき ただちか)

長崎大学 昭和41年卒
医学博士
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本緩和医療学会暫定指導医



非常勤
菅村 洋治
(すがむら ようじ)

新潟大学 昭和42年卒
日本外科学会認定医
日本消化器外科学会認定医



医員
大石 海道
(おおいし かいどう)
2017年3月退職
佐世保市総合医療センターへ異動

宮崎大学 平成24年卒



医員
大坪 一浩
(おおつぼ かずひろ)
2017年3月退職
周南記念病院へ異動

長崎大学 平成25年卒

診療内容

現在7名のスタッフで、あらゆる分野の専門医を取得し、認定施設や若い臨床医の研修・育成の場としての基準を満たしています。

診療面では、専門医による高度の医療を提供するため、肝胆膵外科、消化器・一般外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科の4つのユニットに分け、それぞれ中心となる担当医を決めて、高度で安全な医療を目指しています。

治療対象の多くはがんなどの悪性疾患で、早期の症例に対しては、QOLを重視した機能温存・縮小手術を、進行がんには手術に化学療法、温熱療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。進行がんに対してはdown stagingによる予後の改善を目的とした術前化学療法(NAC)を行う症例が増加しています。

近年、低侵襲手術に重点が置かれるようになり、内視鏡手術や鏡視下手術が増加の傾向にあります。当科における鏡視下手術は1991年という早期に導入し、現在は胆石症などの良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を行い、大腸がんに対しては症例を選択しながら、腹腔鏡下ないし腹腔鏡補助下手術を行っています。

す。胸腔鏡下手術は、自然気胸、肺がんや縦隔腫瘍などに対して年間約46例を行っています。自然気胸の患者さんに対しては、術後再発率0%を目標に治療を行っており、それに近い実績をあげています。

年々増加する乳がんに対しては、整容性を重視した乳房温存手術を目指しています。また全摘が必要な症例においては、症例を選んで一次的乳房再建術を行っています。

専門外来として、乳腺外来、ストーマ外来、禁煙外来を午後の時間帯に開設して、患者さんのニーズにこたえています。

研究面では、赤外観察カメラシステム(Photodynamic Eye, PDE)を導入し、乳がん・胃がん・大腸がんを中心にICGの蛍光特性を利用したnavigation surgeryを開始しています。また全国学会をはじめ、各種学会において、研究報告や症例報告を別記のように発表しました。

毎週月曜日に病理、放射線科と合同で抄読会を行い、毎週月・木曜日に術前検討会を、毎週木曜日に消化器内科医を交えて術後検討会を行っています。また毎月1回手術標本の病理検討会を病理医指導の下で行っています。

診療実績

当院は救急告示病院で、佐世保市の二次輪番救急指定病院でもあり、緊急患者に対しては24時間対応

で行っており、2016年度は2,517台の救急車を収容し、97例の外科緊急手術を施行しました。

■主な診療実績

—手術症例数—

手術総数 571 (全身麻酔418、腰椎麻酔42、局所麻酔111)					
(1)乳腺腫瘍 ・乳がん ・その他(葉状腫瘍等)	105例 92例 13例	(6)胃十二指腸潰瘍(穿孔) (7)小腸疾患 ・イレウス ・腫瘍	2例 18例 13例 1例	(11)胆石症 ・腹腔鏡下 (12)胆嚢腫瘍 (内 腹腔鏡下手術 2例)	61例 53例 4例
(2)甲状腺腫瘍 ・甲状腺癌 ・その他	5例 3例 2例	(8)大腸腫瘍 ・結腸癌 ・直腸がん (内 腹腔鏡下手術 14例)	71例 50例 21例	(14)肝腫瘍(肝切除) ・原発性 ・転移性 (15)膵腫瘍	3例 2例 1例 4例
(3)呼吸器 (内 胸腔鏡下手術 46例) ①肺がん ③縦隔腫瘍 ④気胸 ⑤その他	55例 28例 6例 14例 7例	(9)大腸良性疾患(穿孔) (10)ヘルニア ・鼠径 ・大腿 ・閉鎖孔 ・腹壁 ・臍 (内 腹腔鏡下手術 13例)	5例 52例 42例 4例 1例 3例 2例		
(4)食道がん (5)胃腫瘍 ・胃がん	2例 18例 17例				
(内)緊急手術97(全身麻酔61、腰椎麻酔1、局所麻酔35)					
・急性虫垂炎 ・腸閉塞 ・ヘルニア嵌頓	10例 11例 4例	・気胸 ・大腸がん ・上部消化管穿孔	12例 3例 1例	・小腸穿孔 ・下部消化管穿孔 ・胆石、胆のう炎 ・その他	2例 2例 4例 48例

認定施設

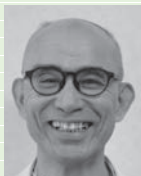
- ・日本外科学会専門医制度修練施設
- ・日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本胸部外科学会専門医制度関連施設
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本乳癌学会関連施設
- ・日本がん治療認定研修施設

Dept.of Orthopaedic surgery

整形外科

運動器のけがや病気を治療しています。特に関節鏡を用いた手術を沢山行っています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



診療部長・手術部部長
宮原 健次
(みやはら けんじ)

長崎大学 昭和58年卒
日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会 リウマチ医
日本整形外科学会 脊椎脊髄病医
身体障害者法 長崎県指定医



部長
北原 博之
(きたはら ひろゆき)

福岡大学 平成2年卒
日本整形外科学会 整形外科専門医
日本整形外科学会 スポーツ専門医
日本体育協会 スポーツ専門医
身体障害者法 長崎県指定医

診療内容

2014年6月より10年ぶりに整形外科が復活して、3年が経とうとしています。

整形外科医は常勤2名体制で外来業務や入院手術業務を行っています。救急も可能な範囲で対応しています。手術症例も年間ほぼ400例前後で推移しています。佐世保市南部を中心に西彼杵半島や佐賀県西部からも患者さんが増えてきました。

当院の特徴としては骨折などの外傷以外にも、関節外

科とくに関節鏡視下の手術が多く、肩関節においては佐世保市有数の病院になってきました。また膝の関節鏡視下の手術や骨切り術、膝や股関節の人工関節置換術、靭帯の再建術や腱の手術なども行っています。さらに当院に多い糖尿病やリウマチの患者さんの骨折などの外傷や関節や腱の手術などに対応しています。手術内容の内訳につきましては、次項をご覧ください。

診療実績

2014年6月～2015年3月(10か月)の全手術症例:312例

2015年4月～2016年3月(1年)の全手術症例:423例

2016年4月～2017年3月(1年)の全手術症例:401例

<今回の1年の内訳>

1)肩関節：90例

①関節鏡視下手術	79例
腱板修復術	57例
(パッチ形成2例を含む)	
関節唇修復	10例
授動術	5例
脱臼に対する制動術	2例
肩石灰除去	1例
滑膜切除	4例

②人工骨頭挿入術	2例
③腕骨近位骨折骨接合	9例

2)膝関節：33例

①関節鏡視下手術	24例
半月板切除	15例
半月板縫合	3例
滑膜切除	4例
ACL再建術	3例

②骨切り術……………	7例
(内骨軟骨移植追加2例)	
③膝蓋骨制動術……………	1例
3)人工関節：32例	
①膝関節全置換……………	27例
(内リウマチ2例)	
②股関節全置換……………	5例
(内リウマチ1例)	
4)大腿骨頸部骨折：67例	
転子部骨折:骨接合……………	34例
内側骨折:骨接合……………	10例
人工骨頭挿入……………	23例
5)その他の骨折：73例	

6)切断術：1例	
大腿切断……………	0例
下腿切断……………	0例
足趾切断……………	1例
手指切断……………	0例
7)腱や靭帯など：26例	
アキレス腱断裂……………	6例
足関節靭帯断裂……………	0例
尺骨神経移行……………	0例
手根管解放……………	4例
ばね指……………	16例
8)その他(感染や抜釘など)：79例	
合計401手術	

認定施設

日本整形外科認定施設

今後の評価と来年度への展開

佐世保市南部を中心に西彼杵半島や佐賀県西部地域の救急医療や運動器の疾患等に対して常勤医師2名でできる対応としてはほぼプラトーに達していると思います。

特に肩関節の手術に対しては専門医が少ない中、北原医師を中心に佐世保市でも中心的存在になりつ

つあります。今後常勤医師または非常勤医師を増やすことができれば、さらに内容を拡大できると考えています。それまでは常勤2名でフルに頑張っ地域医療に貢献していきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。

Dept. of neurosurgery

脳神経外科・脳血管内科

脳血管障害や頭部外傷に最先端の診断・治療を実施しています。



副院長・診療部長
阪元 政三郎
(さかもと せいざぶろう)

福岡大学 昭和60年卒
医学博士
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
長崎クモ膜下出血研究会世話人
長崎県北脳卒中研究会世話人
長崎県北神経懇話会世話人
福岡脳卒中連携セミナー世話人
福岡脳卒中救命セミナー世話人
福岡大学臨床教授



副部長
竹本 光一郎
(たけもと こういちろう)
2017年4月就勤

福岡大学 平成15年卒
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会専門医
日本脳神経血管内治療指導医



医員
堀尾 欣伸
(ほりお よしのぶ)

熊本大学 平成24年卒



医員
古賀 嵩久
(こが たかひさ)
2016年10月就勤

福岡大学 平成24年卒



医員
佐原 範之
(さばら のりゆき)
2017年4月就勤

長崎大学 平成23年卒
日本内科学会認定内科医



脳神経外科 兼
救急部副部長
保田 宗紀
(やすだ むねとし)
2017年3月退職
福岡東医療センターへ異動

福岡大学 平成9年卒
日本脳神経外科学会専門医
日本脳卒中学会 専門医
日本脳卒中学会認定 脳卒中専門医
日本救急医学会 救急専門医
日本脳神経血管内治療学会 認定専門医
日本神経内視鏡学会 技術認定医



医員
藤原 史明
(ふじはら ふみあき)
2016年9月退職
唐津済生会病院へ異動

宮崎大学 平成23年卒



医員
河野 大
(かわの だい)
2016年10月就勤
2017年3月退職
河野脳神経外科病院へ異動

福岡大学 平成25年卒



医員
高木 勇人
(たかき はやと)
2016年7月就勤
2017年3月退職
九州労災病院へ異動

九州大学 平成23年卒



医員
高木 友博
(たかき ともひろ)
2016年9月退職
福岡市民病院へ異動

昭和大学 平成25年卒

診療内容

脳や脊髄および末梢の神経にいたるまで、あらゆる神経系の疾患をもつ患者さんを対象に、専門性の高い診断および手術治療ならびに血管内治療を24時間体制で行っています。診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈脳血管障害〉くも膜下出血(脳動脈瘤破裂)、未破裂脳動脈瘤、脳出血、脳動静脈奇形、脳梗塞、モヤモヤ病、頸動脈狭窄症など

〈脳腫瘍〉神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍、下垂体腫瘍など

〈頭頸部外科疾患〉頭部外傷、顔面外傷など

〈脊椎・脊髄疾患〉変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄動脈奇形など

〈機能的疾患〉顔面痙攣、三叉神経痛など

診療実績

1995年大和町へ移転時より脳神経外科が新設され、特に救急での脳血管障害、外傷、さらに脳腫瘍・脊椎疾患等を治療しています。2009年3月には県北部の地域脳卒中センターに認定され、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞等の脳卒中患者を24時間体制で受け入れ、CT、MRI、超音波検査を即時に行うことで、早期診断・治療を開始できています。最近では脳梗塞患者が増加し、超急性期血栓溶解療法(t-PA)のみならず血管内治療専門医による再開通療法(血行再建術)も増加傾向にあります。

リハビリはPT・OT・STが揃っており、365日休みなしの体制でリハビリを行い、更にロボットスーツHALを用いた最新のリハビリも開始しています。また、脳卒中連携パスを用いて急性期から回復期への患者さんの管理を行うことで連携がスムーズとなり、地域に信頼される脳卒中センターが構築されています。

2009年に手術顕微鏡(Zeiss社OPMI Pentrero)も新しくなり、機能性が向上し、術中蛍光血管造影が可能となり、脳動脈瘤、頸動脈内膜剥離術、バイパス術等で、より安全・確実な治療が可能となりました。また、2011年に神経内視鏡(軟性鏡:オリンパス社、硬性鏡:STORT社)を導入し、低侵襲治療として、脳出血、硬

膜下血腫、下垂体、動脈瘤治療等に積極的に使用しています。2012年12月より3.0T MRIが導入され、2台のMRIが稼働し、急患対応ならびに、画像診断の向上が図れています。

また、16ch神経生理モニターを導入し、術中モニタリングやICUでの脳波モニタリングで、より安全・確実な治療が可能となり、2013年4月から血管内治療専門医による動脈瘤塞栓術、頸動脈ステント留置術、脳梗塞に対する緊急血行再建術が常時可能となり、2014年6月には新しい血管造影機器(フィリップス社)に更新されました。画質が精細かつクリアとなり、また3D画像・CT様画像がリアルタイムに撮影でき、治療が安全・スムーズに行えるようになりました。

手術に関しては、血管内治療が増え、年間件数も年々増加しています。

福岡大学脳神経外科教室の協力のもと、脳神経外科疾患の全般にわたる治療が可能となり、今後はさらなる脳卒中治療の充実を図るため、院内での教育、脳卒中リハビリテーション認定看護師による患者・家族への指導、地域への啓蒙活動を行い、地域医療に貢献していきたいと思っています。

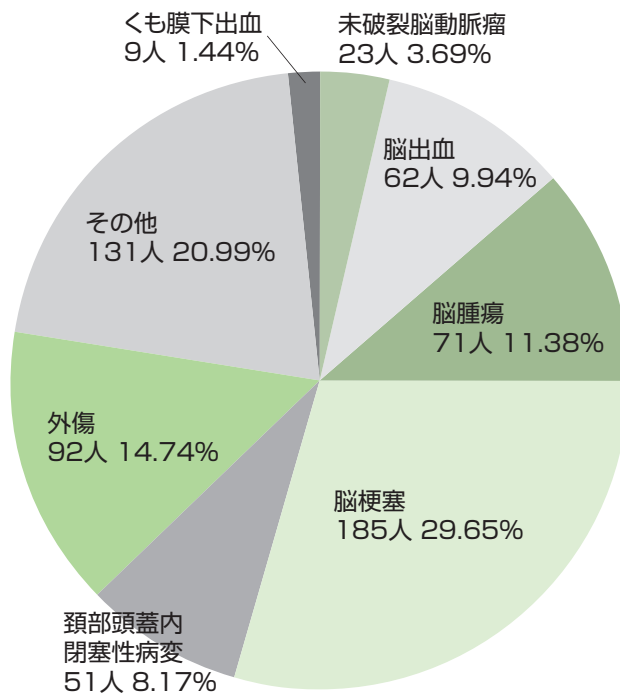
■主な診療実績

・外来患者数:5,864名 ・入院患者数:555名(2016年 555名)

・手術症例数:196件、脳虚血患者 237名 t-PA 6例 (件)

手術名	2014年(1月~12月)	2015年(1月~12月)	2016年(1月~12月)
開頭クリッピング	19(SAH11)	15(SAH 7)	16(SAH 8)
動脈瘤コイルリング	12(SAH 2)	12(SAH 3)	7(SAH 3)
脳出血開頭血腫除去	18	20	19
脳動静脈奇形摘出	1	0	0
頸動脈内膜剥離術	9	9	9
頸動脈ステント留置術	13	14	12
STA-MCAバイパス	3	1	1
脳腫瘍摘出(下垂体)	18(2)	20(6)	23(3)
急性硬膜外血腫	2	0	1
急性硬膜下血腫	22	8	9
慢性硬膜下血腫	33	21	37
V-Pシャント	8	12	5
頭蓋外ステント	5	5	3
頭蓋形成術	8	3	1
髄液ドレナージ	15	15	11
外減圧	8	3	3
頸椎前方固定	1	1	0
腫瘍除去	0	5	4
神経血管減圧術	0	0	0
緊急血行再建術	15	15	15
上記以外血管内治療	10	13	6
その他	24	24	14
計	244	216	196

■入院患者疾病別(2016年4月~2017年3月)



認定施設

日本脳神経外科学会 専門医訓練施設
日本脳卒中学会 認定研修教育病院

今後の評価と来年度への展開

2016年7月から脳卒中内科医が加わり、ようやく脳神経外科・脳血管内科合同の充実した脳卒中診療が行われるようになり、脳血管内科からのエビデンスのある豊富な情報に基づく細に至った指導を受け、特に脳梗塞に対しては、詳細・正確な超音波検査・原因検索を行い、患者の状況を把握し、よりの確な抗血栓療法が行われるようになりました。脳血管内治療を含めた外科手術に関しては人員が増えたにもかかわらず、前年より減少し、最低ライン200例に届きませんでした。24時間断らない方針で、夜間、日祭日は3病院（佐世保市総合医

療センター・長崎労災病院・当院）による輪番制を担っていますが、佐世保市全体で減少しており、紹介数を増やすしかないと思い、今年は院外に足を運んで病院挨拶、努力する所存です。また今春から脳血管内治療外来（未破裂脳動脈瘤・頸動脈狭窄症等）および脳卒中内科外来を新規に開設し、非侵襲的外科治療（瘤内コイル塞栓術、ステント留置術等）を進め、ならびに脳血管内科医による疾患評価、適切な治療、生活指導を含めた予防医療を図っていきます。

Dept. of Cardiovascular Surgery

心臓血管外科

低侵襲心臓手術(MICS:Minimally Invasive Cardiac Surgery)も可能となりました。

診療担当医 ※2017年7月31日現在



部長
谷口 真一郎
(たにくち しんいちろう)

長崎大学 平成11年卒
医学博士
日本外科学会専門医
日本胸部外科学会正会員
日本胸部外科学会九州地方会評議員
三学会構成心臓血管外科修練指導者
三学会構成心臓血管外科専門医
心臓血管外科国際会員
日本脈管学会認定脈管専門医
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医
ICD(インフェクション・コントロールドクター)



副部長
中路 俊
(なかじ しゅん)

長崎大学 平成14年卒
日本外科学会専門医
三学会構成心臓血管外科専門医
日本脈管学会認定脈管専門医
胸部ステントグラフト実施医
腹部ステントグラフト実施医
心臓リハビリテーション指導士
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術指導医



医員
村上 健
(むらかみ たけし)

2017年4月就勤

弘前大学 平成24年卒



副院長・救急部長
柴田 隆一郎
(しばた りゅういちろう)

2017年5月退職
耀光リハビリテーション
病院へ異動

長崎大学 昭和54年卒
医学博士
日本外科学会外科専門医
日本救急医学会専門医
日本胸部外科学会認定医
日本胸部外科学会正会員
日本胸部外科学会九州地方会評議員
長崎大学心臓血管外科非常勤講師
下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施医

診療内容

24時間緊急に対応できる体制を整え、心臓・大血管疾患、末梢血管疾患の外科治療を中心に行っています。特に最先端治療である低侵襲手術として、①心臓弁膜症に対する右開胸小切開手術、②胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術、③下肢静脈瘤に対するレーザー焼灼術を積極的に行っており、体への負担が少ないやさしい専門医療を心がけています。長崎大学病院や地域医療機関と綿密に連絡を取り合い、長崎県北の循環器医療に貢献できるよう努めています。

①心臓疾患

心臓の病気には数多くの種類がありますが、大きくは生まれつき心臓に異常がある先天性疾患と、生まれた後に病気が生じる後天性疾患に分かれます。例えば先天性疾患には、心臓の壁に穴が開いている心房中隔欠損症や、心室中隔欠損症などがあります。後天性心臓疾患には心臓を栄養する血管が狭くなったりつまったりする狭心症や心筋梗塞、心臓を仕切る弁膜(大動脈弁・僧帽弁・三尖弁・肺動脈弁)に異常が生じる弁膜症などがあり、それらの病気に対し、冠動脈バイパス術や弁置換術・弁形成術などの外科治療を行っています。

特に最近では、高齢者の方々の手術が増加しており、手術侵襲を少なくするために人工心肺を使用しない心拍動下冠動脈バイパス手術を積極的に行っています。

②大血管疾患

大血管の病気は血管壁に亀裂が入る大動脈解離と、血管が次第に拡張してくる大動脈瘤などに大きく分かれます。特に、大動脈解離は診療に急を要する場合があります。そのような急を要する病気に対しても、私たちは24時間緊急に対応できる体制を整え診療を行っています。大動脈瘤に関しては動脈瘤を切除して人工血管に取り換える手術が一般的ですが、私たちの施設ではステントグラフト内挿術を行うことも可能であり、多くの治療法の提案ができ、その中から最適と思われる治療を受けることが可能です。

〈ステントグラフト治療とは?〉

ステントグラフト治療とはカテーテルで血管内に人工血管を留置する方法で、利点として一般の手術より体への負担は軽減され、入院期間も短縮できます。しかし、動脈瘤の状態で適応が制限されることや治療効果などの問題点があります。個々の症例ごとによく検討する必要があります。今後のさらなる増加していくと考えられます。

③末梢血管疾患

末梢血管疾患は動脈疾患と静脈疾患に分かれます。足の動脈が狭くなったりつまったりする閉塞性動脈硬化症については、下肢バイパス手術や血管の中から風船で治療する血管内治療を行っています。静脈疾患の外科治療では静脈瘤に対して血管エコーを用いて

診療し、手術の際にも血管エコーで静脈瘤の様子をみながら、適切で最小限の皮膚切開を行う方法で、ストリッピング手術や逆流している静脈の内側からレーザーで静脈の壁を焼く「血管内レーザー焼灼術」を行っています。

診療実績

心臓血管外科の実績(手術件数)				
手術名	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
開心術(OPCAB)	45(11)	57(12)	33(8)	47(3)
胸部大血管(ステントグラフト)	7(3)	10(9)	12(6)	14(11)
腹部大血管(ステントグラフト)	31(10)	17(11)	26(13)	16(10)
末梢動脈	25	20	15	19
末梢静脈(下肢静脈瘤レーザー焼灼術)	145(111)	169(145)	157(138)	200(188)
内シャント造設術	32	38	48	27

認定施設

- ・心臓血管外科学会認定修練施設
- ・日本脈管学会認定研修関連施設
- ・胸部・腹部ステントグラフト実施施設
- ・下肢静脈瘤血管内レーザー焼灼術実施施設

Dept.of Dermatology

皮膚科

皮膚科領域全般にわたり診療を行っています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



部長

山口 宣久

(やまぐち のりひさ)

福岡大学 平成8年卒

診療内容

当科は平日の午前に一般外来診療、局所処置、光線治療などを行い、午後は時間を要する検査・処置および日帰り手術、他科および自科の入院患者さんの診察・処置などを行っています。第1・3・5の火曜にはコメディカルと併せて褥瘡回診を行っています。

治療は原則として各疾患に対するいくつかのオーソドックスな治療法の中から、症状や患者さんの背景を考慮して最も適切な治療法を選択しています。皮膚疾患の多くは何度も繰り返し、完全に治癒するまでに長い時間がかかるものが多いことから、当科では患者さんに根気強く治療を続けていただけるよう、皮膚症状に対する薬物療法にとどまらず、生活習慣や生活環境の見直しも含めたアドバイスをさせていきながら診療をすすめています。皮膚疾患の性格上、外来での通院が主体となりますが、外来では症状のコントロールが不十分な症状の場合は入院治療を要します。症状は内科系の全身疾患の一症状として現れることが少なくないため、その可能性が疑われる場合には他の診療科との連携を重視して診療をすすめていきます。

主な疾患は以下の通りです。

- ＜湿疹・皮膚炎＞アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎、自家感作性皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹など
- ＜蕁麻疹・痒疹・皮膚掻痒症＞蕁麻疹群、痒疹など
- ＜紅斑・紅皮症＞多形紅斑、紅皮症、Stevens-Johnson 症候群など
- ＜薬疹＞薬疹、薬剤過敏性症候群、手足症候群など
- ＜血管炎・紫斑・その他の脈管疾患＞アナフィラクトイド紫斑、皮膚小血管性血管炎など
- ＜膠原病および類縁疾患＞全身性エリテマトーデスお

よび類縁疾患、強皮症、皮膚筋炎など

- ＜物理化学的皮膚障害・光線性皮膚疾患＞日光皮膚炎、熱傷、凍瘡、化学熱傷、放射線皮膚炎、褥瘡など
- ＜水疱症・膿疱症＞天疱瘡、水疱性類天疱瘡、掌蹠膿疱症など
- ＜角化症＞乾癬、類乾癬、魚鱗癬、鶏眼、胼胝など
- ＜色素異常症＞尋常性白斑、老人性色素斑など
- ＜真皮、皮下脂肪組織の疾患＞結節性紅斑、脂肪識炎など
- ＜付属器疾患＞尋常性痤瘡、円形脱毛症、爪甲の変化(爪甲剥離、陥入爪)、男性型脱毛症*など(*保険適応外)
- ＜母斑と神経皮膚症候群＞母斑細胞母斑、神経線維腫症など
- ＜皮膚の良性腫瘍＞脂漏性角化症、表皮嚢腫、化膿性肉芽腫、皮膚線維腫など
- ＜皮膚の悪性腫瘍＞基底細胞癌、有棘細胞癌、光線角化症、Bowen病、癌の皮膚転移、悪性黒色腫(メラノーマ)など
- ＜ウイルス感染症＞水痘、帯状疱疹、尋常性疣贅、伝染性軟属腫など
- ＜細菌感染症＞伝染性膿痂疹、丹毒、蜂窩織炎、壊死性筋膜炎など
- ＜真菌症＞白癬(手、足、爪、体部、股部)、皮膚カンジダ症、癬風など
- ＜抗酸菌感染症＞皮膚結核、硬結性紅斑など
- ＜性感染症＞尖圭コンジローム、梅毒など
- ＜節足動物などによる皮膚疾患＞虫刺症、蜂刺症、マダニ刺症、疥癬など

主な検査・治療

《検査》

- 顕微鏡検査：真菌（糸状菌、カンジダ）やダニなどの検出
- ダーモスコピー検査：母斑、腫瘍等の鑑別
- アレルギー検査
- パッチテスト：歯科金属のアレルギー検査（施行時期に制限あり）
- プリクテスト：ミルクアレルギーテスト（小児科併診）
- 皮膚生検：皮膚病変の確定診断や疾病の深達度など診断するため、病変を含めて皮膚を一部切除し、病理学的に診断を行う検査です。局所麻酔下に実施しますので、以前に抜歯などの際、局所麻酔で気分が悪くなった方は、予めその旨お教えてください。

《治療》

- 冷凍凝固療法：イボなどの良性腫瘍、表在性の皮膚悪性腫瘍に対して適応
- 局所注射法：術後癢痕、ケロイドなどへのステロイド局所注射

■光線療法：

- ・ narrowband-UVB（全身型）（適応症：乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、結節性痒疹など）
- ・ エキシマライト治療：（適応症：乾癬、掌蹠膿疱症、尋常性白斑、円形脱毛症）

■巻き爪の治療：

- ・ 弾性ワイヤー治療（要部品代）
- ・ 陥入爪根治術（フェノール法）

■外来または入院による手術（皮膚皮下腫瘍切除術、皮膚悪性腫瘍切除術）。

- ・ 基本的には局所麻酔で行います。
- ・ 皮弁形成術、植皮術は患部の大きさにより全身麻酔下となります。

《自由診療（保険適用外）》

- 男性型脱毛症：プロペシア、ザガーロ

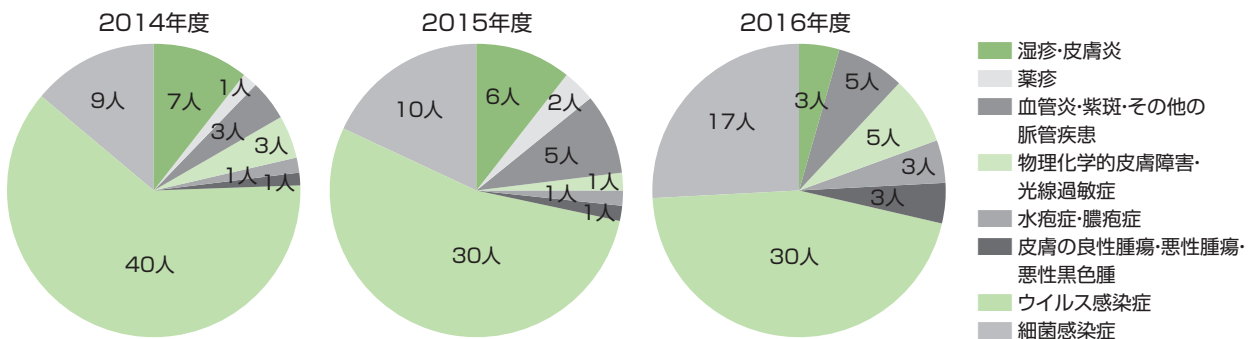
診療実績

■外来、入院統計

		2014年度	2015年度	2016年度
外来患者数	名	4,557	4,535	4,405
外来新患数	名	268	252	254
入院患者数	名	65	56	66
延入院患者数	日	919	701	918

検査・手術		2014年度	2015年度	2016年度
皮膚組織試験採術（皮膚生検）	入院	42	45	43
	外来	1	1	2
皮膚皮下腫瘍摘出術	入院	20	20	20
	外来	1	0	0
陥入爪根治術	入院	1	0	0
	外来	3	6	4
皮膚悪性腫瘍切除術	入院	0	0	1
	外来	3	3	3

■入院治療疾患内訳



今後の評価と来年度への展開

皮膚科は専門的な面のみならず、他科とのつながりも深い診療科です。地域の皆様の病気、健康増進に少し

でもお役に立てられるように、日々研鑽を積み重ねていきたいと思ひます。宜しくお願ひ致します。

Dept.of pediatrics

小児科

子どもの心と体の健康維持に誠実に取り組みます。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



診療部長
山田 克彦
(やまだ かつひこ)

大分医科大学 平成2年卒
長崎大学臨床准教授
日本小児科学会認定 小児科専門医・指導医
日本循環器学会認定 循環器専門医
日本川崎病学会会員
日本小児アレルギー学会会員



部長
犬塚 幹
(いぬづか みき)

大分医科大学 平成6年卒
日本小児科学会認定 小児科専門医
日本小児神経学会認定 小児神経専門医
日本てんかん学会認定 てんかん専門医 指導医
日本小児心身医学会会員
日本小児東洋医学会会員

診療内容

地域の子どもの心と体のすこやかな成長を支援し、保護者への懇切でいねいな説明を心がけています。

新生児を除く乳児から思春期にかけての小児期発症の内科的疾患を、常勤医2名体制で、地域の先生方からのご紹介患者さんを中心に診療しています。また、

医師の専門性を生かして、小児循環器疾患、小児神経疾患の専門医療を行っています。

「子どもの現代病」とも言われる、食物アレルギー、生活習慣病(肥満)、起立性調節障害や心身症の診療にも正面から取り組んでいます。

診療実績

■入院(表1)

区分	件数
入院延患者数	1,086
新入院患者数	199

■入院患者の内訳(表2)

ICD	分類	件数	主な疾患	件数
A-B	感染症および寄生虫症	29	胃腸炎	18
D	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	2	IgA血管炎	2
E	内分泌、栄養および代謝疾患	31	低身長	15
F	精神および行動の障害	3		
G	神経系の疾患	14	てんかん	5
H	耳および乳様突起の疾患	1		
I	循環器系の疾患	4	起立性調節障害	3
J	呼吸器系の疾患	87	肺炎	48
K	消化器系の疾患	1		
L	皮膚および皮下組織の疾患	1		
M	筋骨格系および結合組織の疾患	4	川崎病	3
N	腎尿路生殖生殖器系の疾患	2	尿路感染症	4
Q	先天性奇形、変型および染色体異常	1		
T	損傷、中毒およびその他の外因の影響	19	食物アレルギー	19
合計		199		

■ 外来

区 分	件 数
外来延患者数	4,031
初診（新規 ID 取得）患者数	354

■ 専門的医療

区 分	件 数
心身症カウンセリング	168
脳波検査	182
心エコー検査	203
トレッドミル試験	12
経口糖負荷試験（OGTT）	15
経口負荷試験（食物アレルギー）	20
成長ホルモン分泌刺激試験	13

重点目標・評価と来年度への展開

わが国の小児科は、前世紀末から小児医療提供体制の存続の危機が表面化し、対策として日本小児科学会が主導するモデル案に沿った医療資源の集約化、広域化、病診連携の強化が推進されました。

当院小児科は、学会案で言うところの「一般病院小児科」であり、比較的軽症の小児科疾患の入院治療を受け持つほか、地域の一次救急医療に当番で参加すること、地域小児科センターと医療・人員の両面で交流することが求められており、これに沿った小児医療の提供を行っています。

入院診療の内訳は表1、2に示すとおり、新生児や重症患者を除いて幅広い領域をカバーしています。重症患者でなくても高度医療は必要です。当科では非重症患者が重症化しないよう、乳児の急性細気管支炎に対するネーザルハイフロー療法、川崎病ハイリスク例に対する初期治療としての免疫グロブリン／プレドニゾロン併用療法を地域に先駆けて導入し、てんかん患者に適切な診断・治療を行うための発作時脳波モニタリングを行い、朝起き不良に苦しむ子供たちに有用性が知られていながら普及に至っていない高照度光療法を導入しました。

また、地域の一次救急医療には、佐世保市立急病診療所に開業の先生方と協力して当番で参加しています。

私たちの専門性（サブスペシャリティ）は小児循環器疾患と小児神経疾患です。これらの専門外来を当科で行うほか、佐世保市総合医療センター（循環器、神経）、佐世保市こども発達センター（神経）の各専門外来に診療応援で勤務し、特別支援学校の医療ケアの指導に赴き、また学校心臓病健診の二次検診と精査、小児生活習慣病検診の精査、学校や市民公開講座等での講演（2016年度計8回、別項）を通じて専門性を地域に還元しています。

さらに、県北地域には小児心療科がないので、臨床心理士（非常勤）の協力の元、地域に先駆けて心身症外来を、また管理栄養士や理学療法士の協力で小児生活習慣病外来を開設、運営しています。

良質な医療の提供のためには研究活動も重要です。2016年度の学会発表は8演題、論文発表は2編でした（別項）。診療科規模に比して活発であると自負しています。

私たちは一般病院小児科が地域貢献できる最善の医療、さらに当院の基本理念「患者さんが1日も早く社会に復帰される事を願います」に通じる、私たちだからできる最良の医療の提供を目指します。

Dept. of urology

泌尿器科

基幹病院として「前立腺がん撲滅キャンペーン」に積極的に参加しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



部長
徳永 亨介
(とくなが こうすけ)

金沢医科大学 平成 8年卒
日本泌尿器科学会認定専門医



理事
非常勤
南 祐三
(みなみ ゆうぞう)

東京医科大学 昭和53年卒

診療内容

男性特有の病気である前立腺疾患をはじめとして、排尿に関係するすべての臓器(腎臓、尿管、膀胱、尿道)の疾患の患者さん(女性・小児を含む)を対象に、診断、治療を行っています。

診療している主な疾患は以下のとおりです。

〈前立腺疾患〉前立腺肥大症、前立腺がん、前立腺炎など

〈尿路結石症〉腎臓結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石など

〈尿路感染症〉腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎など

〈その他〉脳・脊髄障害による神経因性膀胱、尿失禁、勃起障害、腎臓がん、膀胱がん、アルドステロン症・クッシング症候群などの副腎疾患、停留精巣など

日本人の前立腺がんは近年急増しており、この10年間で死亡者数がおよそ2倍になっています。高齢化が進む中であって、患者数はさらに増加することが懸念されています。当科は、国が5ヵ年計画で取り組んでいる「前立腺がん撲滅キャンペーン」に、佐世保の基幹病院として積極的に参加しています。

診療実績

全く自分自身の排尿状況と重なることに気づく今日この頃であります。むしろ患者さんの立場での診療ができ有り難く思っております。

当院も地域医療支援病院の資格が与えられ、当科がいかに関与できるかという診療姿勢が問われております。そうとは言え、診療能力(マンパワー)が資格取得後に大幅にアップしたわけではありません。資格取得前と同じマンパワーで、従来よりもさらに地域に貢献できる診療体制を築くためにはいかにあるべきかを考えます。

それを達成できるかどうかは、一つはいかに地域の医療機関と連携できるかが重要な課題であろうことは推察

できます。病診連携は各施設でそれぞれに努力されており、少しずつではありますが結果が出てきている状況です。ただ、病病連携となると、まだまだ各基幹病院間に長年の壁があり、連携がうまくとれず患者さんにご迷惑をおかけするようなことを経験されるのが現状でありましょう。

2016年度は各基幹病院の得意分野や施設基準を踏まえての病病連携を行い、当科が特化できる分野を他の医療機関に認知していただいて、その事を基礎においた地域医療貢献を念頭において活動してきたつもりですが、まだまだ認知度が低く次年度も頑張る理念達成のための努力を継続する覚悟であります。

■主な診療実績

経尿道的膀胱腫瘍切除術	22例	膀胱全摘除術 + 尿路変更術	0例
経尿道的前立腺切除術	7例	その他手術	10例
前立腺がん全摘出術	0例	前立腺針生検	48例
腎摘出術	0例		

Dept. of ophthalmology

眼科

網膜や黄斑、白内障などの専門的診断・治療を実施しています。

診療担当医 ※2017年7月31日現在



副部長
和田 光代
(わだ みつよ)
2016年7月就勤

防衛大学 平成7年卒



非常勤
隈上 武志
(くまがみ たけし)
2017年1月就勤

鳥取大学 平成3年卒
日本眼科学会専門医

非常勤
上松 聖典
(うえまつ まさふみ)
2016年12月退職

長崎大学 平成11年卒
医学博士
長崎大学病院講師
日本眼科学会専門医・指導医

診療内容

2016年7月より、これまでの「非常勤1名」の体制から「常勤医1名+非常勤1名」体制へ変更となりました。多くの方の御尽力を賜り、2017年2月より、入院手術加療も開始できました。この病院で治療してよかったと思っただけのような眼科診療を目標に、日々取り組んで参ります。

【主な疾患】

白内障、緑内障、結膜炎、ドライアイ、アレルギー、麦粒腫、ぶどう膜炎、硝子体出血、糖尿病網膜症、網膜裂孔、網膜剥離、黄斑変性など

診療実績

2016年度 新患数 211名
再診数 1,345名

検査 ※2016年7月～2017年3月

精密眼底検査 2,451例
精密眼圧検査 1,330例
屈折検査 1,276例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部及び後眼部) 956例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部) 479例
細隙灯顕微鏡検査(前眼部)(生体染色) 234例
眼底三次元画像解析 457例
(※2016年12月～2017年3月)
静的量的視野検査 304例
動的量的視野検査 164例
眼底カメラ撮影 198例

眼底カメラ撮影(蛍光眼底法の場合) 27例
矯正視力検査 186例
眼筋機能精密検査及び輻輳検査 63例
色覚検査 61例
中心フリッカー試験 31例
角膜内皮細胞検査 31例
眼球突出度測定 20例
精密視野検査 16例
涙液分泌機能検査、涙管通水、通色素検査 15例
前房隅角検査 13例
角膜曲率半径計測 13例

■手術

(入院)※2017年2月～2017年3月
 水晶体再建術(眼内レンズを挿入する場合) … 5例
 硝子体基頭微鏡下離断術 …… 2例

(外来)※2016年7月～2017年3月
 網膜光凝固術 …… 20例
 虹彩光凝固術 …… 6例
 (2016年12月～)
 レーザー後囊切開術 …… 1例
 (2016年12月～)
 結膜腫瘍摘出術 …… 1例

■注射

テノン氏嚢内注射 …… 2例
 硝子体内注射 …… 2例

重点目標・評価と来年度への展開

- ・患者さんの目の健康を守るため、的確でやさしい診療を目指します。
- ・最新の医療情報を提供できるよう、日々専門知識の習得に努めます。

Dept. of Otolaryngology

耳鼻咽喉科

中耳炎や難聴、鼻炎・副鼻腔炎などの専門的診断・治療を実施しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



部長
大里 康雄
(おおさと やすお)

長崎大学 平成9年卒
日本耳鼻咽喉科学会専門医

診療内容

現在、耳鼻咽喉科は、常勤医1名+非常勤1名にて診療を行っています。

よって、頭頸部腫瘍手術などに関しましては当科では対応できませんが、それ以外の領域につきましては、従来と同様のサービスを提供できるよう、努力しております。

<耳疾患>

- ・めまい、難聴などの精査や治療
- ・滲出性中耳炎の治療や、鼓膜チューブ留置術
- ・慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎などに対する精査や、鼓膜形成手術・鼓室形成手術
- ・急性中耳炎、耳内異物などに対する処置や治療

<鼻疾患>

- ・アレルギー性鼻炎に対する精査や、薬物治療・外科的治療など
- ・慢性副鼻腔炎、副鼻腔嚢腫、鼻中隔彎曲症、鼻骨骨折などに対する手術

- ・急性鼻炎、鼻出血、嗅覚障害、鼻腔内異物などに対する処置や治療

<咽喉頭・頸部疾患>

- ・咽喉頭炎、扁桃炎、唾液腺炎、頸部リンパ節炎など、急性炎症に対する治療
- ・慢性扁桃炎、扁桃病巣感染症、閉塞性睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出手術
- ・小児の滲出性中耳炎に対するアデノイド切除術・口蓋扁桃摘出手術
- ・咽頭異物に対する内視鏡下異物摘出手術
- ・咽喉頭領域の悪性腫瘍に対する組織検査や放射線治療
- ・嚥下障害の症例に対する嚥下内視鏡検査や、言語聴覚士による嚥下リハビリテーション

診療実績

嚥下機能評価(嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査) …… 35例
 両側口蓋扁桃摘出手術 …… 5例
 気管切開術 …… 5例
 内視鏡下鼻内副鼻腔手術 …… 7例

鼓室形成術 …… 2例
 鼓膜形成術 …… 1例
 全麻下鼓膜チューブ留置術 …… 1例

Dept. of Radiology

放射線科

胸腹部の悪性腫瘍治療にハイパーサーミアを積極的に使用しています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在理事・副院長
地域医療連携センター長
医療情報本部長**平尾 幸一**
(ひらお こういち)長崎大学 昭和56年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者
日本ハイパーサーミア学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医
九州・山口ハイパーサーミア研究会世話人

診療部長

堀上 謙作
(ほりかみ けんさく)長崎大学 平成5年卒
医学博士
日本医学放射線学会診断専門医
日本医学放射線学会研修指導者
検診マンモグラフィ読影認定医

部長

末吉 真
(すえよし まこと)長崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会診断専門医

非常勤

山崎 拓也

(やまざき たくや)

宮崎大学 平成8年卒
日本医学放射線学会治療専門医
日本放射線腫瘍学会認定医
日本がん治療認定医

診療内容

■画像診断業務

- ・CT、MRI、核医学、血管造影（心臓カテーテル検査、脳血管造影以外）による検査と診断は全て放射線科が行っています。
- ・CT、MRI検査は、地域医療機関に積極的に利用していただいています。（1,328件/年）
- ・当院の特徴の一つは、胸部単純X線写真の読影を行っていることであり、主治医とのダブルチェックの役割を果たしています。
- ・検診マンモグラフィ読影は、マンモグラフィ読影認定医3名（放射線科及び外科）がダブルチェックを行っています。
- ・検診の胸部写真・肺CT・脳MRIは放射線科と健診センター（健診医）がダブルチェックを行っています。
- ・CT、MRI、核医学の報告書は約98%が検査後24時間以内に作成されています。

■IVR

- ・血管系IVRは肝腫瘍に対する肝動脈化学塞栓療法が最も多い割合を占めています。
- ・内視鏡的止血が困難な症例に対して消化管出血の動脈塞栓術を実施しています。
- ・非血管系のIVRは胆道系（ドレナージや胆道内瘻化）、膿瘍ドレナージが多くを占めています。
- ・胸腹部大動脈ステント留置術を心臓血管外科と共同で行っています。

■放射線治療・ハイパーサーミア（温熱療法）

- ・毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。
- ・地域医療機関より、乳房温存術後や子宮がんの放射線治療依頼を受けています。
- ・他院で化学療法を受けている方でも当院でハイパーサーミア（温熱療法）を受けることが可能です。

診療実績

画像診断

胸部単純X線写真読影	20,628件
血管造影検査	163件
CT	14,494件
MRI	7,891件
マンモグラフィ	2,615件
核医学検査	944件

IVR

血管系IVR	
肝動脈化学塞栓療法	34件
消化管出血の塞栓術	2件
透析シャントの血管拡張術	54件
大動脈ステント内挿術	26件
その他	13件
非血管系IVR	
胆道ドレナージ・内瘻化	21件
膿瘍ドレナージ	9件
生検(CTガイド下)	7件
マーキング(CTガイド下)	2件
その他	7件

放射線治療

乳房	43件
肺	16件
膀胱・前立腺	23件
肝臓・胆道・膵臓	21件
食道	6件
その他	71件

ハイパーサーミア

23件

外来診療体制

画像診断業務・血管造影検査・IVR

月～金曜日 8:30～17:30

地域医療機関からの検査依頼も上記時間に実施しています。

なお救急等の緊急検査依頼は、365日24時間対応しています。

放射線治療

毎週水曜日に、長崎大学の日本医学放射線学会治療専門医による放射線治療計画を行っています。なお、水曜日が祝日の場合には、曜日を変更して放射線治療計画を立てて行います。

ハイパーサーミア

日本ハイパーサーミア学会認定医、臨床工学技士、看護師が共同で治療を実施しています。また、セカンドオピニオン外来も行っています。

健診への協力

健診画像(肺CT、脳MRI、胸部写真、マンモグラフィ)の全件を読影しています。

認定施設

- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・日本ハイパーサーミア学会認定施設
- ・マンモグラフィ検診施設画像認定施設

Dept. of anesthesiology

麻酔科

術中の麻酔管理とICUの管理・運営を行っています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在

診療部長

堤 雅俊

(つつみ まさとし)

長崎大学 昭和62年卒
麻酔標榜医

部長・ICU部長

福島 浩

(ふくしま ひろし)

長崎大学 平成5年卒



副部長

吉村 真紀

(よしむら まき)

大分医科大学 平成7年卒
医学博士
麻酔標榜医

診療内容

当科はスタッフ3名で術中麻酔管理を主な仕事としており、そのほとんどは全身麻酔症例です。また、ICUにお

いて看護課長・主任と共に管理・運営を行っています。

診療実績

2016年度の手術症例は1,572例で、全身麻酔症例は1,003例(うち緊急手術は103例)です。

全身麻酔の各科別の内訳は外科419例(緊急38例)・脳神経外科116例(緊急53例)・心臓血管外科307例(緊急9例)・整形外科143例(緊急2例)・耳鼻咽喉科16例(緊急0例)・泌尿器科2例(緊急1例)です。

2016年度の手術時間では、8時間を超える症例が17例で、最長は14時間26分です。年齢別では、80歳以上の高齢者が161例です。うち、90歳以上が14例です。

麻酔法はセボフルレン・レミフェンタニルによるバランス

麻酔またはプロポフォール・レミフェンタニルによる全静脈麻酔です。また、術後の疼痛管理を考え、積極的に硬膜外麻酔を併用しています。

ICUは10床で運営しており、重症者と術後(主に全身麻酔後)を受け入れています。

2016年度は996名の入室があり、稼働率は83.9%で2月が86.4%と最も高く、11月が78.0%と最も低い稼働です。内訳は外科410名・脳神経外科333名・循環器内科84名・心臓血管外科122名・一般内科38名・消化器内科20名・整形外科29名です。

Dept. of Pathology

病理部

他診療科医と連携して病理診断やカンファレンスを実施しています。

診療担当医 ※2017年7月31日現在



診療部長
臨床検査部長
米満 伸久
(よねみつ のぶひさ)

長崎大学 昭和56年卒
医学博士
日本病理学会病理専門医 研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医
日本臨床検査医学会管理医
死体解剖資格
ICD(インフェクション・コントロール・ドクター)
佐賀大学医学部臨床教授
佐賀大学医学部非常勤講師
佐世保市医師会看護学校非常勤講師
Pathology International編集委員

非常勤

尹 漢勝
(ゆん かんかつ)

長崎大学 昭和50年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医 研修指導医
死体解剖資格
長崎大学大学院医薬学総合研究科病理学 客員教授

非常勤

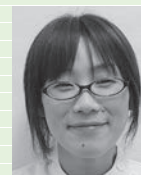
戸田 修二
(とだ しゅうじ)

佐賀大学 昭和59年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医 研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医
死体解剖資格
佐賀大学医学部 病因病態科学講座 臨床病態病理学 教授

非常勤

福岡 順也
(ふくおか じゅんや)

滋賀医科大学 平成7年卒
医学博士
日本臨床病理学会病理専門医 研修指導医
日本臨床細胞学会細胞診専門医 指導医
死体解剖資格
長崎大学大学院病理学教授



非常勤
山本 美保子
(やまもと みほこ)

佐賀大学 平成19年卒
日本病理学会病理専門医
死体解剖資格

非常勤

北村 由香
(きたむら ゆか)

藤田保健衛生大学 平成16年卒

非常勤

山崎 真希子
(やまさき まきこ)

佐賀大学 平成22年卒

非常勤

上木 望
(うえき のぞみ)

長崎大学 平成24年卒

非常勤

唐田 博貴
(からた ひろたか)

富山大学 平成26年卒

診療内容

日々の細胞診、生検診断、手術摘出臓器の病理診断、術中迅速診断、病理解剖および臨床病理カンファレンスを主な業務としています。

細胞診では、婦人科細胞診や尿細胞診はLiquid base cytology (LBC)を用いており、胸腹水、甲状腺など、他の領域でもLBC法を併用することにより、細胞を効率的に収集し診断するとともに、免疫組織化学や分子生物学への試料の応用を開始しました。穿刺細胞診

もより良い標本を作成するため、細胞検査士をはじめとする病理部のスタッフが穿刺現場で、臨床医が採取した検体の処理に当たっています。

生検診断や摘出臓器の診断ではH.E.染色や特殊染色に加え、免疫組織化学がルーチン化されています。自動免疫染色装置を用いて作業の効率化を図るとともに、精度の高い染色を行っています。乳腺では従来からホルモンレセプターやHER2の染色のため、免疫組織

化学が行われています。HER2染色では組織の固定状態が重要ですので、摘出後なるべく早く緩衝ホルマリンを摘出臓器に注入固定するようにしています。また、胃癌においても分子標的治療の開始に伴いHER2染色やFISHによる診断と、大腸癌や肺癌でも分子標的治療の為の遺伝子診断を行っています。この為、手術摘出臓器も含め、原則的に中性緩衝ホルマリンで固定を行っています。

消化器科や外科系の医師とは、摘出臓器の切り出し時に立ち会ってもらい、実際の臓器の所見を術前の画像診断等と付き合わせて切り出しています。術前カンファレンスへの参加とともに、臨床医がそれぞれの症例で何を問題としているかをお互いに確認しつつ、臓器の検索を行うことが可能です。生検診断、摘出臓器の診断とともに、可能な限り早急に結果を臨床医に報告しています。消化器系の摘出標本については、毎週術前カンファレンス後に、術後の臨床病理カンファレンスで症例を呈示しています。消化器系以外の外科提出標本については、毎月合同カンファレンスを開催し、興味のある症例についてより詳細に検討を加えています。必要があれば、これらのカンファレンス後の追加検討も行っています。カンサーボードにも同様に密に関与しています。また腎生検では蛍光抗体法を含め腎臓内科医と一緒に組織を検鏡し、臨床データと照合しつつ診断のみならず治療方針も検討しています。

術中迅速診断では、乳腺のセンチネルリンパ節および温存術に於ける断端の検索が著しく増加しています。

1例にかかる時間が長くなる傾向にありますが、クリオスタット1台と病理部の技士数からいたしかたないところで

す。また術中細胞診との併用も日常的に行い、より精度の高い術中診断を行えるようになりました。

剖検はどこの施設でも年を追って減少していますが、当院でも剖検数が減少しています。剖検症例はほぼ全例実際の固定臓器を示しながら、組織所見もまじえてCPCを行うことで解剖の結果を臨床へ還元しています。2016年度はCPCを5回開催しました。またご希望のあるご遺族には主治医からCPCをふまえた最終的な結果を報告させていただいています。

学会や研究会の支援も病理部で力を入れており、病理に関連したスライドの作成依頼は例年20例程度あります。若い医師には消化器のカンファレンスなどで内視鏡所見やESDなどの所見と照らし合わせつつ、病理所見も自ら発表しています。また病理部としての学会活動や研究会での発表の他、学会誌の編集委員としての査読業務、論文や教科書の執筆などの学術活動、大学や看護学校での講義などの活動も幅広く行いました。

佐賀大学病理学教室や長崎大学原研病理学教室・病理部とも密接な連携関係にあります。大学の教授以下スタッフにも病理診断に加わっていただき、ほぼ全症例をダブルチェック、あるいはトリプルチェックしています。また、大学の教室の協力により、一人病理医のフォローアップとともに、大学の若手の先生の人体病理学の卒業教育にも積極的に取り組んでいます。

また、長崎大学とVPNを接続し、デジタルパソロジーによるコンサルテーションシステムが2016年11月より稼働しています。

診療実績

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
組織診断	2,279件	2,358件	2,922件	3,161件	3,122件
細胞診断	4,842件	4,837件	4,892件	5,291件	5,232件
解剖	21件	10件	14件	12件	10件
剖検CPC	10件	11件	7件	9件	5件
診療病理カンファレンス	81件	51件	48件	45件	45件

Dept. of Medical Center of Cognitive Disorders

認知症疾患医療センター

認知症は、早めの発見・早めの治療が大切です。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



認知症統括顧問
センター長

井手 芳彦

(いで よしひこ)

長崎大学 昭和46年卒
医学博士
認知症サポート医
日本神経学会認定専門医
日本内科学認定内科医

診療内容

全国的に増え続ける認知症患者さんに対応して、当法人では2009年10月に長崎県から「認知症疾患医療センター」の認可を受け、同年12月から診療を開始しました。

認知症専門医1名、精神保健福祉士2名、高次脳機能検査担当作業療法士(OT)1名、専任看護師2名、専任診療アシスタント1名、医療秘書2名の総勢9名で運営しています。

認知症およびその疑いのある患者さんを診察し、確定診断と治療/介護方針を立て、地域の紹介元医師(かかりつけ医)、あるいは「認知症診療医」に紹介し、包括支援センター・介護施設へも誘導し、適切な治療と介護のアドバイスをを行っています。

通常の診療では、ご家族から詳細な問診を行い、本

人の診察、高次脳機能検査、脳MRIかCTを施行します。場合によって、脳血流SPECT、MIBG心筋シンチグラム、DAT-Scanまで行います。

病歴と高次脳機能検査で直ちに診断がつく認知症もありますが、正常加齢か認知症初期かが判然としないMCIが最近増えてきました。行動・心理的症状(BPSD)を伴う患者さんの場合は、ご家族への適切な介護指導と、BPSDをやわらげる薬物処方や連携精神科病院への紹介を迅速にし、介護者の肉体的・精神的負担を軽くすることを第一に考えています。

2011年春から夏にかけて、新しい認知症治療薬が3種類登場しましたので、これらの新薬を含め4種類の認知症治療薬について、認知症講演会や勉強会を開催し、市内の認知症診療医を中心に、新薬の適応や使い分けの研修を続けています。

診療実績

当センターの受診希望者は増える一方です。予約から初診までの平均待ち期間が2ヶ月と長いのが悩みの種です。

月曜日～木曜日は午前中の2時間半、午後の1時間を、金曜日は午後の2時間を外来診療に当て、月平均35名の新規患者さんを診ています。予約から診療開始までの期間を短縮する努力をしていますが、なかなか困

難です。

2016年4月から2017年3月までの1年間で、ご家族から直接あるいは医療機関経由で、初診患者さん407人の診察を行いました。また、電話・面談では年間894件の相談を受けました。

鑑別診断の内訳は、正常加齢と認知症の境界(MCI)が14%、アルツハイマー型認知症(AD)が約

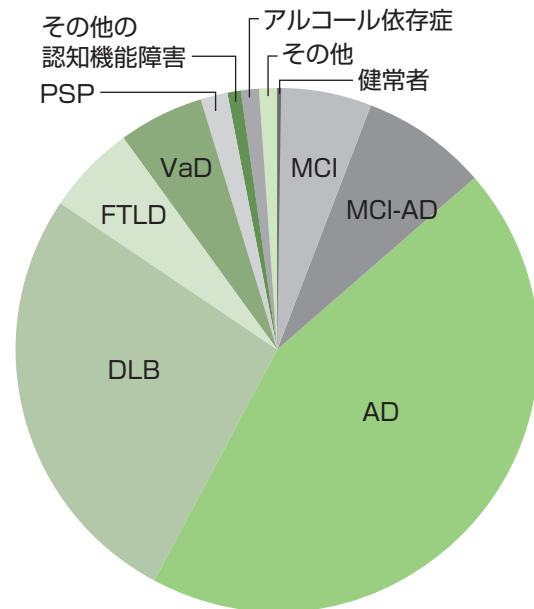
44%、その80%以上はなんらかの血管障害(慢性脳虚血)を伴っています。レビー小体型認知症(DLB)が27%、前頭側頭葉変性症(FTLD)が6%です。純粋な血管性認知症は5%です。なかでもDLBとFTLDがじわりと増えてきました。DLBは心臓突然死が危惧され運動障害も加わりますので、他の認知症に比べて薬物治療・介護に気を遣います。FTLDはBPSDが最も出やすく、在宅での介護は実際上非常に困難です。しかし、新薬メマンチンの登場で、ある程度の段階までは在宅でも介護が可能になりました。

受診予約をして診療待ちの家族、および確定診断のついた患者さんの家族を対象に、佐世保中央病院講

義室で「認知症健康教室:メモリー・クラスルーム」を月1回行っています。認知症の基礎、介護の基礎、介護保険のしくみと介護施設の上手な利用法などを、我々スタッフが分担して3時間ほど講義します。最後に「認知症の人と家族の会」に所属する介護経験者による介護体験記を聴いていただきます。授業に参加したご家族からは、患者さんの心の中がよくわかるようになり対応がやさしくなった結果、患者さんのBPSDが少なくなり介護が楽になった、という声が多数聴かれるようになりました。今後は、一般かかりつけ医の診療を受けている認知症患者さんの家族にも門戸を開き、より多くの家族にこの授業を受けていただきたいと考えています。

■疾患別割合 (2016.4.1~2017.3.31)

疾患名	人数	%
Healthy	1	0.2
MCI	24	5.9
MCI-AD	31	7.6
アルツハイマー型認知症	180	44.2
レビー小体型認知症(DLB)	108	26.5
前頭側頭葉変性症(FTLD)	23	5.7
血管性認知症(VaD)	21	5.2
進行性核上性麻痺(PSP)	7	1.7
アルコール依存症	3	0.7
その他の認知機能障害	5	1.2
その他	4	1.0
合計	407	



■相談件数

(単位:件)

	相談件数	初診のための相談	定期受診・その他
相談件数	894	679	215
電話		613	—
面談		66	—

■診療件数 607件

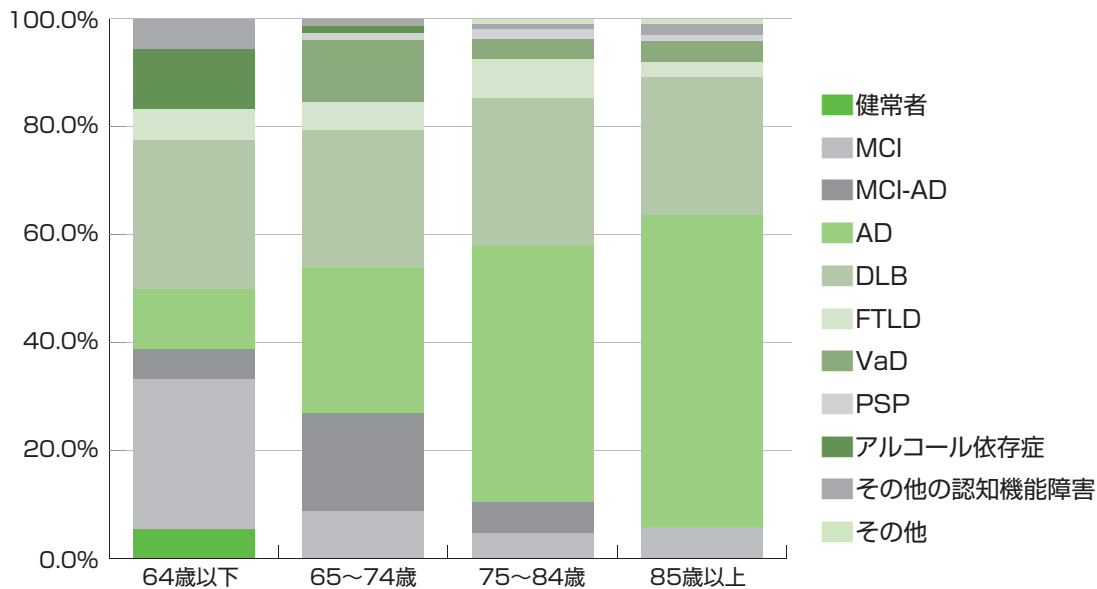
(単位:件)

	初診	追加検査の結果説明	薬効評価	定期受診
患者数	407	72	36	92
紹介状あり	386	—	—	—
紹介状なし	21	—	—	—

■年代別 疾患の割合 (2016.4.1~2017.3.31)

	~64	65~74	75~84	85~
受診者数(人)	18	78	199	102
Healthy	5.6	0.0	0.0	0.0
MCI	27.7	9.0	4.8	2.0
MCI - AD	5.6	18.0	5.7	3.9
アルツハイマー型認知症	11.1	26.9	47.5	57.8
レビー小体型認知症(DLB)	27.7	25.6	27.3	25.5
前頭側頭葉変性症(FTLD)	5.6	5.1	7.2	2.9
血管性認知症(VaD)	0.0	11.5	3.8	3.9
進行性核上性麻痺(PSP)	0.0	1.3	1.9	1.0
アルコール依存症	11.1	1.3	0.0	0.0
その他の認知機能障害	5.6	1.3	0.9	2.0
その他	0.0	0.0	0.9	1.0

(単位:%)



■初診受診者居住地 (単位:人)

	2016.4.1~2017.3.31
佐世保市内	326(80.1%)
市外・県外	81(19.9%)

市外：平戸市(20)、西海市(16)、松浦市(14)、島原市(1)
 佐々町(9)、波佐見町(6)、川棚町(2)、上五島(1)
 小値賀(1)
 県外：佐賀県(7)、その他(4) (単位:人)

■初診患者の介護保険 (単位:人)

	2016.4.1~2017.3.31
介護保険有り(人)	206
介護保険無し(人)	201
不明	0
佐世保市内地域包括支援センターへの紹介(市内在住のみ)	107/152 (70.4%)

■画像検査

初診：頭部MRIまたはCT(必須)

RI検査(脳血流SPECT検査 MIBG心筋シンチ DAT-scan SPECT)

■心理検査

高次脳機能検査(必須)：MMSE、FAB、CDT、Noise pareidolia test 他)

うつスコア(必要時)：SDS、GDS-15

ADAS-J cog (必要時)

■主な認知症疾患医療センター主催・共催の事業報告

《認知症診療医研修会》

(初級編:認知症のしくみ、中級編:適切な治療と介護、上級編:事例検討会)

5月28日・29日、6月16日・23日、7月13日・20日 計6回

《松浦市医療介護関係者合同研修会》

8月19日 テーマ「認知症～気づきと対応」彦じい一座で寸劇披露 他

《メモリークラスルーム》

偶数月：初級編「認知症ってどういう病気？」他

奇数月：中級編「各疾患別の具体的な対応方法について～寸劇をまじえて」他

土曜日 9時半～12時半

《認知症予防トレーナー養成講座》

目的：認知症予防に関する正しい知識を地域に広め、地域の活力を向上させる

対象：キャラバンメイト・サポーター養成講座受講者、地域包括支援センター職員 等

内容：認知症の最新情報から、効果的な運動療法など

第1回：2016年11月5日、19日、12月3日

第2回：2017年3月4日、11日、18日

《認知症疾患地域支援ネットワーク会議》

2ヵ月1回(奇数月) 15:00～17:00

■その他

- ・院内職員対象の勉強会(講師)
- ・地域の専門職対象の勉強会(講師)
- ・地域住民対象の介護教室(講師)
- ・認知症の人と家族の会 全国研究集会(実行委員)
- ・ラン伴(実行委員)

2016年度 認知症サポート医等フォローアップ研修会

(佐世保・長崎県北地区)

日 時:2017年1月28日(土曜日)14:00~17:00 佐世保中央病院南館5階講義室

Session 1

基調講演:「認知症の症候学:診断・対応に苦労した症例」

講師:いずみの杜診療所医師(仙台市) 松田 実

.....

Session 2

事例検討:My Treeを用いた医療介護連携の見える化

講師:認知症疾患医療センター 井手 芳彦

.....

Session 3

「松浦市認知症初期集中支援チームの現状報告」

講師:松浦市地域包括支援センター 荒木 典子

.....

Session 4

「認知症の人の自動車運転について医療・介護者はどう対処すべきか」

講師:認知症疾患医療センター 井手 芳彦

Dept. of dentistry

歯科 (入院患者対象)

入院中の患者さんの口腔トラブルに対応いたします。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在

非常勤

大場 誠悟

(おおば せいご)

長崎大学 平成11年卒
日本口腔外科学会専門医・指導医
歯科医師臨床指導歯科医
日本がん治療認定医機構認定医
日本顎関節学会専門医・指導医

非常勤

楢原 峻

(ならはら しゅん)

長崎大学 平成25年卒

非常勤

銅前 昇平

(どうまえ しょうへい)

2017年4月就勤

長崎大学 平成10年卒
日本口腔外科学会専門医
日本がん治療認定医機構認定医

非常勤

河井 洋祐

(かわい ようすけ)

2017年3月退職

長崎大学 平成15年卒

診療内容

入院中は手術や放射線治療・抗がん剤治療などで一時的に体力を消費させ感染症などのさまざまな合併症を生じることがあります。その中でも全身性感染症(菌性感染症・敗血症など)や誤嚥性肺炎は口腔内細菌が原因の一つとして考えられています。そういった口腔トラブルが原因となって発症する疾患を手術・治療前後の「周術期口腔機能管理」にて予防していきます。また入院中の歯の痛みや入れ歯が合わない・ゆるいなどのトラ

ブルに対しても処置を行っています。

歯科は2016年9月より新しく開設された診療科です。現在3名の非常勤歯科医師が水曜日と金曜日に診療を行っています。また常勤の歯科衛生士が2名、口腔ケアを中心に行っています。

今後も口腔トラブルや周術期の口腔機能管理で患者さんの健康増進に努めていく所存ですのでよろしくお願いたします。

診療実績

2016年9月～2017年3月31日	院内歯科受診者	112名
	院内歯科受診件数(周術期口腔機能管理を含まない)	230件
	周術期口腔機能管理・院内対象者	60名
2016年5月28日～2017年3月31日	NST歯科医師連携加算件数	402件

Health Care Center

健康増進センター

がんや生活習慣病の早期発見を目指し、予防医学活動を行っています。

■診療担当医 ※2017年7月31日現在



センター長
健康管理部部长
中尾 治彦
(なかお はるひこ)

長崎大学 昭和54年卒
医学博士
日本人間ドック学会社員(旧評議員)・ドック指導医・専門医 認定医
日本外科学会認定医
日本消化器病学会専門医
日本消化器外科学会認定医
日本医師会認定産業医
九州予防医学研究会理事



特別顧問
石丸 忠之
(いしまる ただゆき)

長崎大学 昭和42年卒
医学博士
日本産科婦人科学会名誉会員・専門医
日本産婦人科内視鏡学会名誉会員
日本産婦人科手術学会功労会員
日本エンドメトリーオース学会顧問
絨毛性疾患研究会顧問
日本医師会認定産業医



部長
寺園 敏昭
(てらその としあき)

長崎大学 昭和59年卒



医長
川内 奈津美
(かわち なつみ)

佐賀大学 平成21年卒
日本内科学会認定内科医
日本人間ドック学会ドック認定医
日本リウマチ学会リウマチ専門医
日本医師会認定産業医
インфекションコントロールドクター

非常勤
橋爪 聡
(はしづめ さとし)

広島大学 平成8年卒
日本外科学会専門医
日本ヘリコバクター学会認定医
日本医師会認定産業医

非常勤
北村 由香
(きたむら ゆか)

藤田保健衛生大学 平成16年卒
2016年4月就勤

非常勤
唐田 博貴
(からた ひろき)

富山大学 平成26年卒
2016年4月就勤



医長
本多 幸
(ほんだ みゆき)

2017年3月退職

長崎大学 平成4年卒
医学博士
日本内科学会認定内科医
日本医師会認定産業医

基本理念・基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い健康診断を提供します。
3. 健康診断や保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健康診断業務で得られた個人情報等の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

施設沿革

設立：1996年4月1日

沿革：1996年 前身となる白十字会医療社会事業部設立

2002年 佐世保中央病院健康増進センターに改称
(新館建設に伴い検査機器と環境の充実を図る)

2008年 人間ドック学会健診施設機能評価認定取得

認定施設・指定

- ・ 日本人間ドック学会健診施設機能評価 (Ver.3) 認定施設
- ・ 日本人間ドック学会専門医研修指定施設
- ・ 健康保険組合連合会指定健診施設
- ・ 全国健康保険協会管掌健診指定施設

健診内容

健康増進センターは、佐世保中央病院に併設された健診施設で、2002年にそれまでの白十字会医療社会事業部から、新たにゆとりのある空間での快適な受診環境へと整備されました。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、様々な健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師などの各専門スタッフが担

当し、健診の質の確保を図っています。

中尾は主として消化器系及びがん検診、石丸は婦人科系、寺園は主として呼吸器系と内科全般、川内は内科一般、橋爪は内視鏡を担当しております。

2008年12月、運営の合理性など第三者が評価する人間ドック学会の健診施設機能評価を受審し、認定を取得することができました。これからも、業務内容と環境の両面での見直しを行い、受診者目線で、質とサービスの向上に取り組んでいきたいと考えています。

健診実績

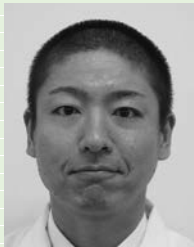
	2014年度	2015年度	2016年度
1日(日帰り)ドック	1,552	1,588	1,659
2日(宿泊)ドック	338	336	303
健診延べ件数	16,559	16,875	16,711

健診検査別実施数

検査名	実績数
胃内視鏡	3,338
胃透視	1,977
腹部超音波	2,349
心電図	6,184
眼底	2,207
眼圧	1,964
胸写	7,876
肺CT	675

検査名	実績数
マンモグラフィー	2,616
乳腺超音波	492
脳MRI	307
便潜血	5,823
大腸内視鏡	70
糖負荷試験	230
子宮頸部	3,056
子宮体部	118

研修医の紹介



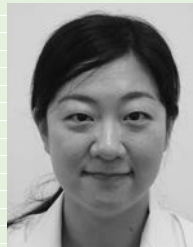
大和 慎治

(やまと しんじ)

長崎大学 平成28年卒

昨年は先生方をはじめ多くの方に支えられ、たくさんを経験させていただき、あっという間の1年間でした。研修2年目の今年も初心を忘れず、患者さんや職員へ真摯に接し、少しでも多くのことを吸収し成長したいと思っています。残り1年ですが、どうぞよろしくお願いします。

研修期間:2016年4月1日～2018年3月31日



平尾 宜子

(ひらお のりこ)

佐賀大学 平成28年卒

昨年1年間、研修中の科だけでなく多くの先生方、コメディカルスタッフの方にたくさん指導していただきました。研修が進むにつれて任せていただける機会もあり、とても充実した日々を過ごすことができています。2年目は1年目以上に多くの症例、手技に挑戦していけたらと思います。ご指導よろしく願いいたします。

研修期間:2016年4月1日～2018年3月31日



柴田 雅士

(しばた まさし)

長崎大学 平成28年卒

1年間で今後必要になってくるであろう知識や手技を積極的に吸収していきたいと思っています。研修に協力して下さる患者さん、先生方、ともに働く職員の方々への感謝の気持ちを忘れず真剣に取り組みたいと思いますのでご指導よろしく願いいたします。

研修期間:2017年4月1日～2018年3月31日



市川 宏美

(いちかわ ひろみ)

長崎大学 平成29年卒

4月から2年間研修させていただきます。現在早くも指導医の先生方や病棟の皆さま、事務の方々の温かいご指導とご支援を感じる毎日です。職員の皆さま方かたはもちろん、おひとりおひとりの患者さんからたくさんのことを学び、仕事でお返しできる人間になりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

研修期間:2017年4月1日～2019年3月31日

学会賞等受賞記念学術講演会

2011年末より、その年の学会などにおける研究発表(症例報告を含む)で学会賞などを受賞した場合に、その栄誉を称えとともに貴重な研究発表を職員間で共有して学術研究活動を推

進することを目的として開催しています(受賞例が無い年は未開催)。2016年12月には第4回目を開催し、過去6年間で以下の10題の発表が各賞を受賞しました。

開催回 (開催年月日)	学会など賞の名称	発表タイトル 受賞者
第1回 (2011/12/27)	日本医療薬学会 奨励賞	抗MRSA薬の至適投与法の追究 —薬効評価と副作用解析に関する臨床薬物動態研究— 佐世保中央病院 薬剤部 課長 辻 泰弘
	日本糖尿病学会 九州地方会 支部会賞	糖尿病患者における心血管イベントの予知マーカーに関する研究 —接着因子、炎症、インスリン抵抗性を中心に— 佐世保中央病院 糖尿病センター長 松本 一成
第2回 (2012/12/25)	日本臨床細胞学会 秋季大会 新潟賞	ISO15189取得に向けての病理検査室での取り組み 佐世保中央病院 臨床検査技術部 主任 片瀬 直
	日本認知症予防学会 学術集会 浦上賞	アルツハイマー型認知症とレビー小体型認知症の早期鑑別 —MMSEにおける3単語遅延再生と五角形描画の乖離— 佐世保中央病院 リハビリテーション部 嶋田 史子
	長崎大学第1内科 関連病院賞	佐世保中央病院糖尿病センターの先進的取り組み 佐世保中央病院 糖尿病センター 松本 一成
第3回 (2014/12/25)	長崎地域 リハビリテーション塾 最優秀発表賞	多職種連携により自宅退院を実現できた 間質性肺炎末期患者の一症例 佐世保中央病院 リハビリテーション部 主任 川上 章子
	MRSAフォーラム 優秀演題賞	バンコマイシンのMIC値がMRSA肺炎の治療効果に 及ぼす影響 佐世保中央病院 薬剤部 岩村 直矢
	日本循環器学会九州地方会 研修医セッション 最優秀賞	逆たこつぼ型の左室収縮異常を呈し、急性循環不全を 伴った褐色細胞腫の1例 佐世保中央病院 研修医 池田 貴裕
第4回 (2016/12/20)	日本認知症予防学会 学術集会 優秀賞(浦上賞)	急性期病院における看護師の認知症対応力向上プログラム 認知症疾患医療センターの取り組み 佐世保中央病院 認知症疾患医療センター 日和田正俊
	日本呼吸器学会・日本結核病 学会・日本サルコイドーシス/ 肉芽腫性疾患学会九州支部 夏季学術講演会 育成賞	淡水溺水に伴う急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に 肺サーファクタント補充療法が奏功した一例 佐世保中央病院 研修医 平尾 宣子

学会発表実績

呼吸器内科

学会・研究会

会期	学会名	演題	講師
2016年 5月18日	第81回第二内科学会	淡水溺水に伴う急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に肺サーファクタント補充療法が奏功した1例	平尾 宜子
2016年 7月23日	第77回日本呼吸器学会九州支部 夏期学術講演会	淡水溺水に伴う急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に肺サーファクタント補充療法が奏功した1例	平尾 宜子
2017年 2月27日	第17回東部地区 臨床内科カンファレンス	COPDと在宅酸素療法	小林 奨
2017年3月 18日	第1回日本医真菌学会 九州四国支部会	間質性肺炎の維持療法中に発症したAspergillus terreusによる慢性進行性肺アスペルギルス症(CPPA)に対しMicafunginが著効した1例	小林 奨

座長

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2016年 5月20日	第7回長崎県北部感染症 研究会	当院における血液培養陽性例の 臨床的検討	北松中央病院 内科 東山 康仁先生	小林 奨
2016年 7月7日	佐世保呼吸器フォーラム	LUNG CANCER UP TO DATE	長崎大学 第二内科 山口 博之先生	副島 佳文
2017年 2月25日	第57回日本肺癌学会 九州支部学術集会	免疫療法4	—	副島 佳文

神経内科

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2016年 9月14日	日本製薬(株)主催 社内教育講演	末梢神経障害について	竹尾 剛
2016年 10月18日	協和発酵キリン(株)主催 社員研修講演	神経疾患に関する最新の医学的 知見について	竹尾 剛
2016年 11月26日	小野薬品工業(株)主催 平戸・北松浦認知症連携セミナー	①こんな症状ありませんか? — 認知症を疑うキーワード— ②認知症の診断と治療に対する ポイント	①長崎大学病院へき地病院再 生支援・教育機構 准教授 中桶 了太先生 長崎大学大学院 ②医歯薬学総合研究科運動障 害リハビリテーション分野 教授 佐藤 克也先生 (コメンテーター) 柿添病院 院長 柿添 圭嗣先生 佐世保中央病院 竹尾 剛 押淵病院 押淵 素子先生 谷川病院 院長 谷川 宏之先生

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2016年 11月28日	エフピー(株)主催 社内講演	パーキンソン病の治療	竹尾 剛
2017年 2月13日	大日本住友製薬(株) 社内研修講演	パーキンソン病について	竹尾 剛

座長・司会

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2016年 6月21日	第125回 県北神経懇話会	<情報提供> ニュープロパッチ最新の知見	大塚製薬(株) 学術課 池田 俊二 先生	竹尾 剛 阪元政三郎
		1.「感染性脳動脈瘤破裂による脳出血に対して僧房弁形成術後に感染性動脈瘤摘出術を施行した一例」	1.佐世保中央病院 脳神経外科 同 心臓血管外科 藤原 史明、竹本光一郎 高木 友博、堀尾 欣伸 保田 宗紀、中路 俊 阪元 政三郎	
		2.「重複中大脳動脈に関連した脳動脈瘤の2例」	2.長崎労災病院 脳神経外科 広瀬 誠、豊田 啓介 川原 一郎、北川 直毅 先生	
		3.「痙性斜頸に対する脳外科的アプローチの選択 -4例の経験から-」	3.長崎川棚医療センター 西九州脳神経センター 神経内科 浦崎 永一郎、石坂俊輔 福留 隆泰、酒井 和香 成田 智子 先生	
		4.「CLCN1 遺伝子に2つの異変を認めた先天性ミオトニーの一例」	4.長崎川棚医療センター 臨床研究部・神経内科 福留 隆泰、前田 泰宏 成田 智子、権藤雄一郎 永石 彰子、松尾 秀徳 先生	
		5.「半側空間無視による拍手徴候」 (ビデオ供覧)	5.特定医療法人雄博会 千住病院 神経内科 福田 安雄先生 作業療法士 池田 朋代先生	
6.「雷鳴頭痛で発症し、動脈原性脳塞栓症と考えられた1例」	6.佐世保総合医療センター 神経内科 飛永 祥平、藤本 武士 島 智秋、松尾巴瑠奈 宮崎禎一郎 先生			
2016年 11月4日	第90回 長崎県北脳卒中研究会 学術講演会	<製品紹介> アルツハイマー型認知症治療剤 「レミニール錠」		
		①「高次脳機能検査から見た認知症の鑑別」	1.佐世保中央病院 認知症疾患医療センター 作業療法士 橋口 留美先生	阪元政三郎
		②「脳は血管から老いる～血管リモデリングからみた認知症～」	②岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 脳神経内科学 山下 徹 先生	竹尾 剛

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2016年 11月22日	県北パーキンソン病 治療学術講演会	当院における最近のDBS症例について	長崎川棚医療センター 神経内科部長 福留 隆泰先生	長崎川棚 医療センター 副院長 松尾 秀徳先生
		ニューロパッチの使い方 使用経験から得られた意義と 処方ポイント	産業医科大学若松病院 神経内科 診療教授 魚住 武則先生	<総合司会> 井手 芳彦 <司会> 竹尾 剛
2017年 3月9日	県北認知症 多職種連携 事例検討会	グループディスカッション		竹尾 剛

リウマチ・膠原病センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 4月21～23日	第60回 日本リウマチ学会総会・学術集会	当院におけるRA患者のHBV再活性化に 関する検討	江口 勝美
		高齢者のリウマチ性疾患	植木 幸孝
2016年 5月28日	第313回 日本内科学会九州地方会	診断に肝生検が有用であった好酸球性肉芽腫性 多発血管炎の1例	荒牧 俊幸
2016年 9月3～4日	第52回 九州リウマチ学会	当センターRA患者におけるHBV既往感染者の 再活性化に関する検討	江口 勝美
		T2T達成のための地域連携ネットワークを用いた 関節リウマチ診療	荒牧 俊幸
2016年 10月29～30日	第31回 日本臨床リウマチ学会	関節痛を主訴に来院し潰瘍性大腸炎の発見に 至った一例	辻 創介
		地域連携によるチーム医療	植木 幸孝
		当院におけるアバタセプトの使用状況	辻 創介
		後期高齢発症関節リウマチの患者背景との 治療選択	荒牧 俊幸
2017年 3月11～12日	第53回 九州リウマチ学会	訪問看護チームと連携し外来にてBIO在宅 自己注射が確立できた高齢RA患者の報告	野口早由里
		関節リウマチ患者におけるHBV既往感染者からの 再活性化18症例の検討	江口 勝美
		長崎県下における脊椎関節炎の診断の状況	荒牧 俊幸
		トファシチニブにて改善の得られた難治性血管炎性 皮膚潰瘍の一例	荒牧 俊幸
		肺高血圧症を発症した抗セントロメア抗体陽性 強皮症の1例	辻 創介
ACPAの値によるアバタセプトの有効性の検討	辻 創介		

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2016年 5月10日	東彼杵郡医師会火曜会 生涯教育講座	関節リウマチの最新治療	植木 幸孝
2016年 5月26日	第1回佐世保若年リウマチ治療 セミナー	関節リウマチ治療の現在・未来 ～abataceptを中心に～	江口 勝美
2016年 6月1日	長崎県保険医協会主催 研究会	難病シリーズ「膠原病」	植木 幸孝
2016年 6月9日	ゼルヤンツ カレッジ in 筑後	マルチターゲット機能を有するトファシチニブ(ゼルヤンツ)を臨床でどのように使用するか?	植木 幸孝
		ゼルヤンツに関する総合討論	植木 幸孝
2016年 6月16日	諫早東部地区関節リウマチ セミナー	関節リウマチ治療の過去・現在・未来	江口 勝美
2016年 6月18日	関節リウマチ治療カンファレンス	当院におけるリウマチ治療でのバイオスイッチの検証	植木 幸孝
2016年 6月25日	Xeljanz Xperience Xchanges 2nd announcement	ガイドラインの位置づけを考える	植木 幸孝
2016年 7月8日	上五島地域連携セミナー	高齢者や高リスク患者さんに対するBIO導入のアルゴリズム	植木 幸孝
2016年 7月13日	循環型地域連携講演会	強直性脊椎炎および乾癬性関節炎の最新診断・治療について	荒牧 俊幸
		ララサークルの現状報告と課題	野口早由里 菅沼 徳恵 植木友理子 加藤 陽子
2016年 8月23日	第34回佐賀リウマチのケア 研究会	関節リウマチの最新治療と医療連携	植木 幸孝
2016年 8月30日	AS疾患研究会	今後の診断と治療をどうして行くべきか	江口 勝美
2016年 11月2日	佐世保RAフォーラム	関節リウマチ治療の近未来:寛解から薬剤の減量・休薬を目指して	江口 勝美
2016年 11月6日	リウマチ医療講演会	関節リウマチ患者さんへの取り組み	江口 勝美
2017年 1月17日	Biologics User's Forum on RA in 長崎	関節リウマチにおけるリンパ増殖性疾患	江口 勝美

座長

会 期	学会・講演会名	演 題	講 師	座 長
2016年 6月24日	第2回リウマチ治療 セミナーin SASEBO	関節リウマチにおける自己抗体と 治療選択	広島大学病院 リウマチ膠原病科 講師 山崎 聡士先生	植木 幸孝
2016年 7月13日	循環型地域連携講演会	強直性脊椎炎および乾癬性関節 炎の最新診断・治療について	佐世保中央病院 リウマチ膠原病センター 荒牧 俊幸	植木 幸孝
		ララサークルの現状報告と課題	佐世保中央病院 リウマチ膠原病センター (財)日本リウマチ財団 登録 リウマチケア看護師 野口早由里、菅沼 徳恵 植木友理子、加藤 陽子	植木 幸孝

2016年 8月5日	県北リウマチネットワーク 研究会	トシリズマブ使用症例の検討	佐世保市総合医療センター リウマチ・膠原病内科 医長 中島 好一先生	江口 勝美
		当院におけるトシリズマブの 使用状況	佐世保中央病院 リウマチ膠原病センター 辻 創介	江口 勝美
		実践!!Treat to Target	医療法人修礼会 おあしす 内科リウマチ科クリニック 院長 太田 修二先生	植木 幸孝
2016年 9月6日	佐世保中央病院フォーラム	高齢RA患者に対するMTXの 有効性	佐世保市総合医療センター リウマチ・膠原病内科 医長 中島 好一先生	植木 幸孝
		関節リウマチの分子標的治療: 作用機序と有効性	長崎大学大学院歯薬学総合 研究科 先進予防医学共同 専攻 先進予防医学講座 リウマチ・膠原病内科学分野 教授 川上 純先生	植木 幸孝
2016年 11月2日	佐世保RAフォーラム	リウマチ性疾患における臨床研究 について	独立行政法人国立病院機構 熊本再春荘病院 リウマチ科 部長 森 俊輔先生	植木 幸孝
2016年 12月2日	佐世保中央病院フォーラム	関節エコー最新の話	北海道内科リウマチ科病院 理事長 谷村 一秀先生	植木 幸孝
		関節リウマチ診療における 看護師の役割	北海道内科リウマチ科病院 看護師 蛭名百合亜先生	植木 幸孝
2017年 3月11~ 12日	第53回九州リウマチ学会	ポスターセッション 主題1-3 リウマチ性疾患に対する新規治療 薬の使用経験「Tofa,IGU」		江口 勝美

論文・雑誌掲載

題 名	掲 載 誌	著 者
Baseline MRI bone erosion predicts the subsequent radiographic progression in early rheumatoid arthritis patients who achieved sustained good clinical response	Mod Rheumatol.2017Mar8:1-6	Tamai M, Arima K, Nakashima Y, Kita J, Umeda M, Fukui S, Nishino A, Suzuki T, Horai Y, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, Iwamoto N, Ichinose K, Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, Uetani M, <u>Eguchi K</u> , Kwakami A
Clinical benefit of 1-year certolizumab pegol(CZP) add-on therapy to methotrexate treatment in patients with early rheumatoid arthritis was observed following CZP discontinuation:2-year results of the C-OPERA study,a phase III randomised trial	Ann Rheum Dis.2017 Feb2. pii:annrheumdis-2016-210246	Atsumi T, Tanaka Y, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, <u>Eguchi K</u> , Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Togo O, Okada T, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T

題 名	掲 載 誌	著 者
Analysis of bone metabolism during early stage and clinical benefits of early intervention with alendronate in patients with systemic rheumatic diseases treated with high-dose glucocorticoid:Early Diagnosis and Treatment of Osteoporosis in Japan(EDITOR-J)study	J Bone Miner Metab.2016 Nov;34(6):646-654	Tanaka Y, Mori H, Aoki T, Atsumi T, Kawahito Y, Nakayama H, Tohma S, Yamanishi Y, Hasegawa H, Tanimura K, Negoro N, <u>Ueki Y</u> , kawakami A, <u>Eguchi K</u> , <u>Saito K</u> , Okada Y
Familial Mediterranean fever is no longer a rare disease in Japan	Arthritis Res Ther.2016 Jul 30;18:175	Migita K, Izumi Y, Jiuchi Y, Iwanaga N, Kawahara C, Agematsu K, Yachie A, Masamoto J, Fujikawa K, Yamasaki S, Nakamura T, Ubara Y, Koga T, Nakashima Y, Shimizu T, Umeda M, Nonaka F, Yasunami M, <u>Eguchi K</u> , Yoshiura K, Kawakami A
Rapid improvement of Clinical Disease Activity Index(CDAI)at 3 months predicts a preferable CDAI outcome at 1 year in active rheumatoid arthritis patients treated with tocilizumab:results from an observational investigation of daily clinical practice	Clin Exp Rheumatol.2016 Sep-Oct;34(5):808-812	Kawashiri SY, Nishino A, Suzuki T, Nakashima Y, Horai Y, <u>Ueki Y</u> , <u>Aramaki T</u> , Fujikawa K, Nakashima M, Okada A, Migita K, Mizokami A, Matsuoka N, Mine M, Sakito S, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, Aoyagi K, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A
Clinical outcomes in the first year of remitting seronegative symmetrical synovitis with pitting edema(RS3PE)syndrome	Mod Rheumatol.2017 Jan;27(1):150-154	Origuchi T, Arima K, Umeda M, Kawashiri SY, Tamai M, Nakamura H, Tsukada T, Miyashita T, Iwanaga N, Izumi Y, Furuyama M, Tanaka F, Kawabe Y, <u>Aramaki T</u> , <u>Ueki Y</u> , <u>Eguchi K</u> , Fukuda T, Kawakami A
A Japanese familial Mediterranean fever patient with a rare G632S MEFV mutation in exon 10	Mod Rheumatol.2017 Mar;27(2):378-379	Umeda M, Migita K, <u>Ueki Y</u> , Nonaka F, <u>Aramaki T</u> , <u>Terada K</u> , Koga T, <u>Ichinose K</u> , <u>Eguchi K</u> , Kawakami A
Magnetic Resonance Imaging Bone Edema at Enrollment Predicts Rapid Radiographic Progression in Patients with Early RA:Results from the Nagasaki University Early Arthritis Cohort	J Rheumatol.2016 Jul;43(7):1278-84	Nakashima Y, Tamai M, Kita J, Michitsuji T, Shimizu T, Fukui S, Umeda M, Nishino A, Suzuki T, Horai Y, Okada A, Nishimura T, Koga T, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Hirai Y, Arima K, Yamasaki S, Nakamura H, Origuchi T, Takao S, Uetani M, Aoyagi K, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A

題 名	掲 載 誌	著 者
Prognostic Factors Toward Clinically Relevant Radiographic Progression in Patients With Rheumatoid Arthritis in Clinical Practice:A Japanese Multicenter,Prospective Longitudinal Cohort Study for Achieving a Treat-to-Target Strategy	Medicine(Baltimore)2016 Apr;95(17):e3476	Koga T, Okada A, Fukuda T, Hidaka T, Ishii T, <u>Ueki Y</u> , Kodera T, Nakashima M, Takahashi Y, Honda S, Horai Y, Watanabe R, Okuno H, <u>Aramaki T</u> , Izumiyama T, Takai O, Miyashita T, Sato S, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Origuchi T, Nakamura H, Aoyagi K, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A
Multiple Serum Cytokine Profiling to Identify Combinational Diagnostic Biomarkers in Attacks of Familial Mediterranean Fever	Medicine(Baltimore)2016 Apr;95(16):e3449	Koga T, Migita K, Sato S, Umeda M,Nonaka F, Kawashiri SY, <u>Iwamoto N</u> , <u>Ichinose K</u> , Tamai M, Nakamura H, Origuchi T, <u>Ueki Y</u> , Masumoto J, Agematsu K, Yachie A, Yoshiura K, <u>Eguchi K</u> , Kawakami A
Evaluation of switching from intravenous to subcutaneous formulation of tocilizumab in patients with rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol.2016 Sep;26(5):662-6	<u>Iwamoto N</u> , Fukui S, Umeda M, Nishino A, Nakashima Y, Suzuki T, Horai Y, Nonaka F, Okada A, Koga T, Kawashiri SY, Fujikawa K, <u>Aramaki T</u> , <u>Ichinose K</u> , Hirai Y, Tamai M, Nakamura H, <u>Terada K</u> , Nakashima M, Mizokami A, Origuchi T, <u>Eguchi K</u> , <u>Ueki Y</u> , Kawakami A
Post-hoc analysis showing better clinical response with the loading dose of certolizumab pegol in Japanese patients with active rheumatoid arthritis	Mod Rheumatol.2016 Jul;26(4):473-80	Takeuchi T, Yamamoto K, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, <u>Eguchi K</u> , Watanabe A, Origasa H, Kobayashi M, Shoji T, Togo O, Miyasaka N, Koike T
The first double-blind,randomised,parallel-group certolizumab pegol study in methotrexate-naive early rheumatoid arthritis patients with poor prognostic factors,C-OPERA,shows inhibition of radiographic progression	Ann Rheum Dis.2016 Jan;75(1):75-83	Atsumi T, Yamamoto K, Takeuchi T, Yamanaka H, Ishiguro N, Tanaka Y, <u>Eguchi K</u> , Watanabe A, Origasa H, Yasuda S, Yamanishi Y, Kita Y, Matsubara T, Iwamoto M, Shoji T, Okada T, van der Heijde D, Miyasaka N, Koike T
Identification of Disease-Promoting HLA ClassI and Protective Class II Modifiers in Japanese Patients with Familial Mediterranean Fever	PLoS One.2015 May 14;10(5):e0125938	Yasunami M, Nakamura H, Agematsu K, Nakamura A, Yazaki M, Kishida D, Yachie A, Toma T, Masumoto J, Ida H, Koga T, Kawakami A, <u>Eguchi K</u> , Furukawa H, Nakamura T, Nakamura M, Migita K

題名	掲載誌	著者
A long-term follow-up of Japanese mother and her daughter with Blau syndrome : Effective treatment of anti-TNF inhibitors and useful diagnostic tool of joint ultrasound examination	Mod Rheumatol. 2017;27(1):169-173	Yoshiharu Otsubo, Ikuo Okafuji, Toshimasa Shimizu, Fumiaki Nonaka, Kei Ikeda, <u>Katsumi Eguchi</u>
自己免疫性自律神経節障害を合併したリウマチ性疾患の3症例	九州リウマチ 第36巻(1) 20~26,2016	梅田 雅孝・三瀨 正秀・古賀 智裕 一瀬 邦弘・向野 晃弘・河野 浩章 樋口 理・中根 俊成・ <u>江口 勝美</u> 植木 幸孝・川上 純
サイトレポート	ASPO15K News Letter 2016.4	植木 幸孝
地域連携時代におけるリウマチ診療の専門看護師と専門薬剤師について ~はじめに~	東和コミュニケーションプラザ特別号 リウマチシリーズ 2016年8月 Vol.3	植木 幸孝
地域連携時代におけるリウマチ診療の専門看護師と専門薬剤師について ~専門看護師の重要性、必要性~		加藤 陽子
地域連携時代におけるリウマチ診療の専門看護師と専門薬剤師について ~専門薬剤師の重要性、必要性~		曾根本恵美
質疑応答	SSK 流会報ながさき 44号	植木 幸孝
質疑応答	SSK 流会報ながさき 45号	江口 勝美

糖尿病センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 5月19日~21日	第59回 日本糖尿病学会 年次学術集会	糖尿病教育入院で血圧自己測定を体験することの有用性について	松本 一成
		重症低血糖症にて当院へ救急搬送された症例の背景因子の検討	森 芙美
		当院における糖尿病と肺炎に関する調査報告	重野里代子
2016年 10月14日~15日	第54回 日本糖尿病学会 九州地方会	糖尿病地域連携パス患者における糖尿病網膜症の頻度と関連因子	松本 一成
		糖尿病地域連携患者における糖尿病性腎症と危険因子の保有率の関連	森 芙美
		当院における糖尿病と肺炎に関する調査	重野里代子
		釘による刺創から右足蜂窩織炎を繰り返し治療に難渋した2型糖尿病患者の一例	徳満 純一

講演会・セミナー

会 期	学 会 名	演 題	講 師
2016年 4月9日	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる対話術ワークショップ	Part1 インスリンに関する情報提供 Part2 チェンジトーク Part3 動機づけ面接法の4つの原理 Part 4 OARS(権)	松本 一成
2016年 4月20日	糖尿病連携学術講演会	そうだったのか!患者さんが変わる糖尿病治療における指導	松本 一成
2016年 5月18日	ノボノルディスクファーマ社内臨床講座	コーチングの技術及びMSLに求めること	松本 一成
2016年 5月28日	患者さんとの対話術を学ぶ会	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる対話術～動機づけ面接法～	松本 一成
2016年 5月27日	患者さんのやる気を意識した糖尿病治療を考える会	患者さんのやる気を引き出す対話～糖尿病コーチング～	松本 一成
2016年 6月4日	動機づけ面接技法 講演会 ～より良いコーチングのために～	糖尿病患者さんとの対話法 ～コーチングと動機づけ面接～(第1部)(第2部)	松本 一成
2016年 6月6日	村上病院講演会	妊娠糖尿病に関する総論	森 芙美
2016年 6月13日	村上病院講演会	妊娠糖尿病の管理について	松本 一成
2016年 6月20日	第3回 大分県北部インスリン治療研究会	動機づけ面接によるインスリン治療の導入	松本 一成
2016年 6月25日	第10回 新潟県地域糖尿病療養指導士認定更新のためのスキルアップトレーニング	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法～糖尿病コーディング～	松本 一成
2016年 7月8日	「Dirbetes Seminar」	糖尿病治療のABC	松本 一成
2016年 7月9日	糖尿病コーチングセミナー～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 7月16日	第11回 日本臨床コーチング研究会総会・学術集会	院内でコーチングを使ってみたら…	松本 一成
2016年 8月1日	糖尿病バーチャルシンポジウム～患者さんのためにできること～	インスリン治療を継続するための対話～糖尿病コーチング タイプ分け～	松本 一成
2016年 8月5日	第6回 尾道糖尿病セミナー～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話	松本 一成
2016年 8月26日	ノボノルディスクファーマ社内臨床講座	佐世保中央病院でのインスリン導入について	森 芙美
2016年 8月27日	第7回 北河内糖尿病フォーラム～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 9月2日	長崎原爆病院研修会	メディカルサポートコーチング	松本 一成
2016年 9月6日	田辺三菱製薬 講師招聘勉強会	糖尿病の奥の細道をのぞく～高齢社会を迎えて～	森 芙美
2016年 9月7日	糖尿病と感染症フォーラム	当院における糖尿病と肺炎に関する調査報告	重野里代子
2016年 9月9日	糖尿病コーチングセミナー	患者さんのやる気を引き出す対話法～糖尿病コーチング～	松本 一成
2016年 9月12日	第32回 糖尿病診療を考える会	糖尿病患者の心理と行動	松本 一成
2016年 9月30日	神戸DM臨床カンファレンス～患者さんの心理に寄り添った対話術を考える～	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる対話術	松本 一成

会 期	学 会 名	演 題	講 師
2016年 10月1日	インスリン治療を受け入れやすくなるワークショップ ～動機づけ面接の手法から～	糖尿病患者さんとの対話法 ～コーチングと動機づけ面接によるインスリン導入～	松本 一成
2016年 10月7日	第2回 福井県南地区糖尿病 フォーラム～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 10月21日	喜多医師会学術講演会 ～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 10月22日	熊本県病院薬剤師会 糖尿病療法研究会第47回研修会	糖尿病の行動療法	松本 一成
2016年 10月28日	上越糖尿病患者コーチング セミナー～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 11月5日	第45回 但馬糖尿病チーム医療 研究会のご案内 ～動機づけ面接法～	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話術	松本 一成
2016年 11月10日	第6回 Next Generation Shapers in Fukuoka ～糖尿病コーチング～	患者さんのやる気を引き出す対話	松本 一成
2016年 11月12日	糖尿病セミナーin滋賀	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話	松本 一成
2016年 11月14日	第455回 始良地区内科医会 第19回 始良地区糖尿病医療 連携協議会学術講演会	糖尿病患者さんとの医療面接のコツ ～コーチングと栄養看護外来～	松本 一成
2016年 11月16日	佐賀県栄養士会医療事業部 平成28年度 第2回研修会 ～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 11月19日	糖尿病コーチングセミナー ～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 11月25日	糖尿病コーチング in 柏崎 ～糖尿病コーチング～	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法	松本 一成
2016年 12月3日	患者さんがインスリン治療を受け 入れやすくなる対話術 ワークショップ	患者さんがインスリン治療を受け入れやすくなる 対話術～動機づけ面接法～	松本 一成
2016年 12月10日	第9回 メディカルスタッフの ための糖尿病スキルアップ ワークショップ	糖尿病患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2016年 12月27日	アステラス製薬社内研修会	糖尿病薬物治療について	重野里代子
2017年 2月4日	坂鶴地区糖尿病療養指導 スキルアップセミナー	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 2月11日	第2回 石巻糖尿病コーチング セミナー	患者さんのやる気を引き出す対話法 ～糖尿病コーチング～	松本 一成
2017年 2月25日	第1回 糖尿病療養支援スキル アップセミナー in Hiroshima	患者さんのやる気を引き出す対話～コーチング～	松本 一成
2017年 3月4日	患者さんがインスリン治療を 続けるためのワークショップ	Part1 4つのタイプ分け Part2 各タイプへの接し方マニュアル Part3 タイプを見分けるコツ Part 4 インスリン治療でQOLが低下する要因	松本 一成
2017年 3月10日	タケダ糖尿病フォーラム ～患者さんとの communicationを考える～	共感的傾聴～糖尿病患者さんとの信頼関係が 深くなる医療面接～	松本 一成

会期	学会名	演題	講師
2017年 3月12日	第12回 島根県糖尿病協会 糖尿病療養指導研修会 ノボノルディスクファーマ社内 臨床講座	方法から始める糖尿病の医療面接・ コーチングの使い方	松本 一成
2017年 3月17日	第4回 Kumamoto Diabetes Meeting	周術期の血糖コントロール～理論と実践～	松本 一成

消化器内視鏡センター

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 6月24日～6月25日	第107回日本消化器病学会 九州支部例会	糖尿病ケトアシドーシス加療中に腸管サイトメガロ ウイルス感染症を発症した一例	田島 和昌
2016年 11月20日	日本内科学会九州地方会	圧迫包装薬包Press Through Package(PTP) 誤飲により小腸穿孔を来した一例	大和 慎治
2016年 11月25日 ～11月26日	第108回日本消化器病学会 九州支部例会 第102回日本消化器内視鏡学会 九州支部例会	集学的治療が奏功した出血性直腸静脈瘤の一例	平尾 宣子
2016年 12月10日	第8回長崎大学消化器内科 研究会	経皮経肝的側副血行路塞栓術が奏効した出血性直 腸静脈瘤の一例	加茂 泰広
2017年 3月18日	長崎胆膵研究会	門脈腫瘍栓を伴う膵神経内分泌腫瘍に対し手術を 行った一例	岩津 伸一

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2016年 6月3日	第1回肝援隊フォーラム	長崎県におけるC型肝炎治療早期導入 のための取組みについて	木下 昇
2016年 7月19日	EAファーマ(株)	制酸剤の歴史とPPIの今後の展望に ついて	木下 昇
2016年 9月24日	GATHER長崎	腹部超音波検査	加茂 泰広
2016年 11月8日	あすか製薬(株)福岡支店社内研修会	肝性脳症について	木下 昇
2016年 12月5日	北松浦医師会学術講演会	酸分泌抑制薬の歴史とこれからの展望	木下 昇
2016年 12月8日	IBD佐世保ミニカンファランス	Indetermined colitisの一例	峯 彩子

座長

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2016年 11月18日	C型肝炎懇話会	高齢化社会におけるC型肝炎治療 と今後の展望	虎の門病院 藤山俊一郎先生	加茂 泰広
2016年 12月8日	第53回県北肝臓研究会	当院におけるRFAの実施状況	佐世保市総合医療センター 消化器内科 日野 直之先生	木下 昇
2016年 11月25日 ～11月26日	第108回日本消化器病 学会九州支部例会 第102回日本消化器 内視鏡学会九州支部例会	内科的治療によって救命し得た 重症アルコール性肝障害の 1例 他4題	国立病院機構熊本医療 センター 竹本 梨紗先生 他4名	吉村 映美

循環器内科

学会・研究会

会 期	学会・研究会,他会合名	演 題	発表者
2016年 7月28日	第57回日本人間ドック学会 学術大会	「職員の推定塩分摂取量の現状と生活習慣病との 関連の検討」	佐世保中央病院 健康増進センター ○永尾奈津美 田口久美子 本田 幸 寺園 敏昭 中尾 治彦 循環器内科 木崎 嘉久
2016年 8月19日	第23回日本心血管 インターベンション治療学会 九州・沖縄地方会	「CABG当日の深夜に突然の心停止を来たし、 緊急冠動脈造影により multi vessel spasm の 関与が疑われた症例」	佐世保中央病院 循環器内科 ○吉村 聡志 本田 智大 落合 朋子 中尾功二郎 木崎 嘉久 心臓血管外科 中路 俊 谷口真一郎 柴田隆一郎
2017年 1月14日	日本心血管インターベンション 治療学会九州・沖縄支部 第24回九州・沖縄地方会/ 第1回冬季症例検討会	「中年女性の急性冠症候群に対して保存的加療を 選択した症例」	佐世保中央病院 循環器内科 ○吉村 聡志 落合 朋子 中尾功二郎 木崎 嘉久

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2016年 4月24日	長崎大学病院「第33回若手医師のための の実力アップセミナー」		佐世保中央病院 循環器内科 落合 朋子
2016年 7月5日	社内勉強会講演	「不整脈とβ遮断薬」	佐世保中央病院 循環器内科 中尾功二郎
2016年 9月2日	社内勉強会講演	「カテーテルアブレーションと薬物治療」	佐世保中央病院 循環器内科 中尾功二郎
2016年 11月25日	第20回クリニカルパス大会	「虚血性心疾患について」	佐世保中央病院 循環器内科 落合 朋子
2016年 11月25日	第20回クリニカルパス大会	「慢性心不全について」	佐世保中央病院 循環器内科 吉村 聡志
2017年 1月24日	高尿酸血症勉強会 in 佐世保	「高尿酸血症を考える」	佐世保中央病院 循環器内科 木崎 嘉久
2017年 2月18日	佐世保中央病院市民公開講座 気づき にくい心臓病 心臓弁膜症について	「もっと知ってほしい!~心臓弁膜症の お話~」	佐世保中央病院 循環器内科 吉村 聡志

症例検討会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 4月15日	長崎EVT研究会	「総大腿動脈を含む外腸骨動脈の慢性完全閉塞病変に対してHybrid revascularizationを行った症例～血管開窓下に行ったEVT～」	佐世保中央病院 循環器内科 ○本田 智大、吉村 聡志、 落合 朋子、中尾功二郎、 木崎 嘉久
2016年 4月26日	第71回県北ハートカンファランス		
2016年 8月9日	第72回県北ハートカンファランス		
2016年 10月20日	第189回経過報告会	「心房細動に対するカテーテルアブレーション」	佐世保中央病院 循環器内科 中尾功二郎
2016年 12月19日	第73回県北ハートカンファランス		
2017年 3月28日	第74回県北ハートカンファランス		
2017年 3月31日	佐世保地区心臓核医学研究会	症例提示	佐世保中央病院 循環器内科 落合 朋子
2017年 3月31日	佐世保地区心臓核医学研究会	症例提示	佐世保中央病院 循環器内科 吉村 聡志

座長

会期	学会・講演会名	演題	講師	座長
2016年 4月8日	第9回県北周術期管理懇話会	「心臓OPE周術期におけるランジオロールの有効性」	佐世保中央病院 心臓血管外科 医長 中路 俊	木崎 嘉久
2016年 4月27日	循環器と糖尿病	「脳・心血管障害再発予防へのSGLT2阻害薬の期待」	福岡大学筑紫病院 循環器内科 教授 浦田 秀則先生	木崎 嘉久
2016年 6月10日	佐世保地区重症心不全カンファランス	「重症心不全に対しCRT-D植え込みを施行した症例」 「当院における重症心不全診療の現状」	佐世保市総合医療センター 循環器内科 瀬戸 裕先生 長崎大学病院 心臓血管外科 講師 谷川 和好先生	木崎 嘉久
2016年 10月2日	日本超音波医学会第26回九州地方会学術集会	一般演題 「血管」		木崎 嘉久
2016年 10月18日	佐世保中央病院フォーラム	「肺高血圧症治療のUpdate」	長崎大学大学院医歯学薬学 総合研究科 循環器内科学 講師 池田 聡司先生	木崎 嘉久
2016年 10月20日	第189回経過報告会	「心房細動に対するカテーテルアブレーション」	佐世保中央病院 循環器内科 中尾功二郎	木崎 嘉久
2016年 10月28日	第5回県北循環器連携パス学術講演会	「冠動脈インターベンションにおける最近の知見-PCIの適切な管理を目指して-」	東北大学病院 循環器内科 講師 高橋 潤先生	木崎 嘉久
2016年 11月11日	循環器ミニレクチャー	「心血管カテーテル治療の現状～PCIからTAVIまで」	長崎大学病院 循環器内科 講師 片山 敏郎先生	木崎 嘉久
2017年 2月18日	佐世保中央病院市民公開講座 気づきにくい心臓病 心臓弁膜症について	「もっと知ってほしい!～心臓弁膜症のお話～」	佐世保中央病院 循環器内科 吉村 聡志	木崎 嘉久
2017年 3月31日	佐世保地区心臓核医学研究会	「FFR全盛時代における心臓核医学の意義～FFRとシンチ不一致例をどう解釈する?～」	東京医科大学八王子医療センター 循環器内科 准教授 笠井 督雄先生	木崎 嘉久

世話人会

会 期	会 名
2016年7月4日	第8回 県北循環器連携バス世話人会
2016年10月12日	県北メタボリックシンドローム研究会世話人会
2016年11月10日	県北臨床循環器懇話会世話人会
2017年2月6日	第9回 県北循環器連携バス世話人会

整形外科

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	発表者
2016年 8月18日	経過報告会	変形性膝関節症に対する骨切り術と人工関節	宮原 健次

脳神経外科

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2016年 4月14日	第41回 日本脳卒中学会総会	瘤状拡張部からの細分枝を有する破裂椎骨動脈解離状動脈瘤におけるproximal occlusionの有効性	堀尾 欣伸
2016年 4月15日	第41回 日本脳卒中学会総会	当院でのBranch atheromatous disease (BAD)の臨床経過	藤原 史明
2016年 4月22日 2016年 6月11日 2016年 9月30日	佐世保脳外科医会 第123回 日本脳神経外科学会九州支部会 第75回 日本脳神経外科学会学術総会	茎状突起過長症に伴う内頸動脈解離	堀尾 欣伸
2016年 6月21日	第125回 県北神経懇話会	感染性脳動脈瘤破裂による脳出血に対して僧帽弁形成術後に感染性動脈瘤摘出術を施行した1例	藤原 史明
2016年 7月29日	佐世保脳外科医会	当院で経験したGliosarcomaの2例	高木 友博
2016年 8月27日	第34回 The Mt.Fuji workshop on CVD	脳血管外科を目指す後期研修医の立場から	堀尾 欣伸
2016年 9月30日 2017年 3月16日	第75回 日本脳神経外科学会学術総会 第42回 日本脳卒中学会学術集会	椎骨動脈解離による椎骨動脈閉塞後に見られた対側denovo VA dissectionの1例	保田 宗紀
2016年 10月22日	第124回 日本脳神経外科学会九州支部会	脳内出血で発症した大脳鎌血管肉腫の1例	堀尾 欣伸
2016年 11月2日 2017年 3月16日	佐世保脳外科医会 第42回 日本脳卒中学会学術集会	頸部回旋により鎖骨下動脈盗血症候群を呈した高度鎖骨下動脈狭窄症の1例	堀尾 欣伸

会期	学会名	演題	発表者
2016年 11月17日	第190回 経過報告会	見逃されるかもしれない急性期血行再建の適応症例	堀尾 欣伸
2017年 2月28日	第127回 県北神経懇話会	蝶形骨翼硬膜動静脈瘻の1例	堀尾 欣伸
2017年 3月11日	第217回 日本神経学会九州地方会	下垂体腺腫術後に生じたトルコ鞍内血腫(鞍底硬膜下血腫)の1例	河野 大
2017年 3月16日	第42回 日本脳卒中学会学術集会	急性期延髄梗塞において優位側椎骨動脈閉塞が呼吸停止に与える影響	高木 勇人

心臓血管外科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 5月25日	第44回日本血管外科学会学術総会	EVAR後 type2 endoleakに対して経動脈アプローチとCTガイド下経皮的アプローチそれぞれで施行した塞栓術の治療経験	中路 俊
2016年 7月21日	第49回日本胸部外科学会九州地方会総会	三腔解離を呈した慢性B型大動脈解離のTEVARの1例	谷口真一郎
2016年 11月30日	第29回日本外科感染症学会総会学術集会	心臓大血管手術におけるオラネキシジングルコン酸液の使用経験	谷口真一郎

講演会・セミナー・世話人

会期	講演会・セミナー名	演題	講師
2016年 4月8日	第九回県北周術期管理懇話会	心臓OPE周術期におけるランジオロールの有効性	中路 俊
2016年 6月11日	長崎県柔道整復師会学術研修会 佐世保会場(公開講座)	知っておきたい足の血管病～その足の症状は、血管病かもしれませんよ!?	谷口真一郎
2016年 6月17日	佐世保感染対策学術講演会	SSIを極めよう!～防止対策とサーベイランス～	谷口真一郎
2016年 10月18日	社外講師勉強会	VTE治療周辺に関する最近の話題と現状	谷口真一郎
2016年 11月10日	世話人	第51回県北臨床循環器懇話会世話人会	谷口真一郎
2017年 1月25日	第31回心臓血管外科ウインターセミナー学術集会	CABG後に冠動脈攣縮をきたした一例	中路 俊
2017年 2月18日	気づきにくい心臓病 心臓弁膜症について	心臓弁膜症外来について	谷口真一郎

小児科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 4月17日	第198回日本小児科学会長崎地方会	抗原食物除去中の食物アレルギー小児の栄養指標と体格指数	山田 克彦
2016年 4月14日	第119回長崎県県北小児科医会学術講演会	抗原食物除去中の食物アレルギー小児の栄養指標と体格指数	山田 克彦

会 期	学 会 名	演 題	発 表 者
2016年 4月14日	第119回長崎県北小児科医会 学術講演会	小児心身症外来開設から10年間のあゆみ	犬塚 幹
2016年 4月17日	第198回日本小児科学会 長崎地方会	小児心身症外来開設から10年間のあゆみ	犬塚 幹
2016年 6月3日～5日	第58回日本小児神経学会 学術集会	若年性ミオクロトーてんかんの治療および 患者背景についての検討	犬塚 幹
2016年 7月24日	第199回日本小児科学会 長崎地方会	成人用食行動質問表を用いた肥満小児の 食行動異常への介入	山田 克彦
2016年 9月8日	第122回長崎県北小児科医会 学術講演会	平成27年佐世保中央病院入院統計と 主要疾病の診療内容の分析	山田 克彦
2016年 11月25日	佐世保市産婦人科医会 学術講演会	てんかん診療の実際	犬塚 幹

講演会・セミナー

会 期	講演会・セミナー名	演 題	講 師
2016年 8月4日	佐世保市内小中学校 養護教諭対象	子どもたちの生活がおかしい! ～子どもの健康と睡眠～	犬塚 幹
2016年 8月18日	佐世保市薬剤師会学術講演会	てんかんの基礎	犬塚 幹
2016年 11月8日	佐世保市立相浦西小学校	早寝・早起き・朝ごはん	犬塚 幹
2016年 11月22日	佐世保市立崎辺中学校	心の健康について	犬塚 幹
2016年 12月13日	西海市立西海北小学校	早寝・早起き・朝ごはん～質のよい睡眠	犬塚 幹
2016年 12月14日	佐世保市立世知原中学校	早寝・早起き・朝ごはん	犬塚 幹
2016年 12月15日	佐世保市立花高小学校講演会	小学生から始める生活習慣病対策	山田 克彦
2017年 2月18日	佐世保中央病院市民公開講座	こどもの心臓弁膜症	山田 克彦

座長

会 期	学会・講演会名	演題名・演者	講 師	座 長
2016年 6月9日	第120回長崎県北 小児科医会 学術講演会特別講演	予防接種の環境変化の中で、 どうワクチンを進めますか?	津村 直幹	山田 克彦
2016年 9月8日	第122回長崎県北 小児科医会 学術講演会一般演題	平成27年市内三病院の入院統計	山田 克彦、合田 裕治、 角至 一郎	山田 克彦
2016年 10月13日	第123回長崎県北 小児科医会 学術講演会特別講演	小児耳鼻咽喉科疾患について	藤山 大祐	山田 克彦
2016年 11月22日	第7回長崎県北肺高血圧症 研究会	九州大学病院成人先天性心疾患 外来と成人先天性心疾患におけ るPAH治療について	山村健一郎	山田 克彦
2017年 2月9日	第124回長崎県北 小児科医会 学術講演会特別講演	ワクチンによる小児の感染症予防	柳井 雅明	山田 克彦

論文

題名	掲載誌	著者
起立性調節障害132例における不登校傾向を示す要因	日本小児科学会雑誌 2015;119:977-984.	犬塚 幹 山田克彦
概日リズム睡眠障害に対する高照度光療法	日本小児科学会雑誌 2016;120:728-735.	犬塚 幹 山田克彦

掲載雑誌

題名	掲載誌	著者
起立性調節障害に対する漢方薬の使い方	漢方医学 2016;409:40-43.	犬塚 幹

放射線科

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 7月30日	第29回九州・山口地区ハイパーサーミア研究会	温熱化学放射線療法により5年生存中のstageI肺癌の1例	平尾 幸一
2016年 12月10日	第39回九州IVR研究会 (第11回日本IVR学会九州地方会)	直腸静脈瘤に対して経皮経管的塞栓術を施行した1例	堀上 謙作

*2015年分

病理部

学会・研究会

会期	学会名	演題	発表者
2016年 5月12日~14日	第105回日本病理学会	ISO15189の運用について (取得~更新審査~現在)	片瀨 直 丸田 秀夫 米満 伸久
2016年 5月28日~29日	第57回日本臨床細胞学会 春季大会	骨、軟骨および横紋筋への分化を示した いわゆる乳腺癌肉腫の1例	片瀨 直 本山 高啓 浜田 有 樋渡 崇史 丸田 秀夫 米満 伸久
2016年 6月25日~26日	第31回長崎県臨床細胞学会	当院産婦人科LBCの現状	片瀨 直 本山 高啓 浜田 有 樋渡 崇史 丸田 秀夫 米満 伸久
2016年 11月18日~19日	第55回日本臨床細胞学会 秋季大会	食道EUS-FNAが診断に有用だった 神経内分泌細胞癌	片瀨 直 本山 高啓 浜田 有 樋渡 崇史 丸田 秀夫 米満 伸久

認知症疾患医療センター

講演会・セミナー

会期	講演会・セミナー名	開催場所	
2016.4.20	認知症連携事例検討会	佐世保中央病院	講師
2016.6.16	認知症診療医のための研修会(前編)	佐世保市医師会	講師

会 期	講演会・セミナー名	開催場所	
2016年 6月23日	認知症診療医のための研修会(後編)	佐世保市医師会	講 師
2016年 6月29日	認知症連携事例検討会	アルカスSASEBO	講 師
2016年 7月13日	かかりつけ医認知症研修会(前編)	佐世保市医師会	講 師
2016年 7月20日	かかりつけ医認知症研修会(後編)	佐世保市医師会	講 師
2016年 8月19日	松浦市医療介護合同研修会	松浦市生涯学習センター	講 師
2016年 8月26日	認知症講習会「トータルケアサポートセミナー」	ホテル・リソル	座 長
2016年 9月23日~25日	日本認知症予防学会	宮城県・仙台市	座 長
2016年 10月15日	壱岐地区看護師復職研修会(認知症)	壱岐病院	講 師
2016年 11月29日	西彼地区医療介護連携セミナー	コラソンホテル	講 師
2017年 1月29日	<長崎口のリハビリ塾>第21回講演会	佐世保共済病院	講 師
2017年 3月5日	市民公開講座「その症状、認知症かも?」	コミュニティーセンター	講 師
2017年 3月7日	講演会「排尿障害と認知症」	セントラルホテル	講 師
2017年 3月9日	認知症事例検討会	ホテル・リソル	講 師

健康増進センター

座長

会 期	学会・講演会名	演題名・演者	座 長
2017年 3月11日 ~12日	第18回九州予防医学 研究会	パネルディスカッション	中尾 治彦

学会・研究会

会 期	学 会 名	演 題	発表者
2016年 7月28日~29日	第57回日本人間ドック学会学術 大会	一般演題	永尾奈津美